

(財)みずほ教育福祉財団

障害児教育研究助成事業

障害児教育研究論文

—平成18年度—

知的障害養護学校における

児童生徒の実態把握ツールの開発

—教師と保護者が子どもの実態と支援を共有するためのツールの在り方—

山形県立鶴岡養護学校

園 部 直 人（グループ代表）

平成19年3月

研究協力：国立特殊教育総合研究所

知的障害養護学校における児童生徒の実態把握ツールの開発

—教師と保護者が子どもの実態と支援を共有するためのツールの在り方—

山形県立鶴岡養護学校 園部 直人（グループ代表）

要旨：障害のある子どもへ適切な支援を図るためにには、心理・発達検査や保護者からの聞き取りなど他に、日常生活の様々な場面における子どもの状態を多面的に理解することもアセスメントの1つとして重視されている。また、自閉症の障害特性に見られるように特異的な行動等を把握することも、適切な支援を図る上で大切な要素である。このように幅広い視点によって個々の子どもの実態を把握した上で、特別な教育的ニーズを明確にし、具体的な支援を図ることが重要である。

また、個に応じた支援を効果的に実施するためには、子どもに関わる教師と保護者が子どもの実態把握ならびに個別の支援の具体的な取り組みを共通理解し、同じ取り組みで支援を進めていくことが重要である。本研究では、子どもの生活状態の把握と支援の取り組みを教師と保護者で共通理解することを目的として作成した「視点ツール改訂版」の試用を通して、本ツールに対する評価を行う。また、試用による今後の開発課題を明らかにすることを目的とする。

キーワード：生活状態、支援の取り組み、共通理解、「視点ツール改訂版」、両面を捉える（“得意なところ” “困っているところ”）

はじめに

現在の障害者施策は、障害のない人も障害のある人も分け隔てなく共に生活していく共生社会、ノーマライゼーション社会の実現を目指し、大きな変革を遂げようとしている。「障害者基本計画」(2002年)⁵⁾では、障害特性を踏まえた施策を展開するために、個々の障害に応じたニーズを的確に把握し、障害特性に応じた支援を実施することとしている。そして、障害のある人のニーズを的確に把握するにあたっては、世界保健機関(WHO)の国際生活機能分類(ICF: International Classification of Functioning, Disability and Health 以下「ICF」)の考え方方が重要視されている。

ICFでは、障害のある個人を様々な要因との相互作用によって理解し、必要な支援を考えるという概念的な枠組みを提案している。この考えに基づくことにより、個人の生活機能（心身機能、身体構造、活動、参加）を肯定的に把握した上で、生活機能において制約等を受けていること（機能障害、活動制限、参加制約）を理解し、その人なりの力を發揮し充実した生活が実現できるように、個人を取り巻

く環境の改善や最適な支援を考えることができる。教育の分野においては特別支援教育への転換が図られ、障害のある子ども一人一人のニーズに応じた効果的な具体的な支援を計画、実施するための個別の教育支援計画、個別の指導計画の作成がきわめて重要であり、このためには個々の特別な教育的ニーズを的確に把握することが必要である。このため、ICFの考え方のように個々の子どもの様々な状態を多面的な視点によって的確に把握することがこれまで以上に重要な意味を持つようになった。

筆者は昨年度、独立行政法人国立特殊教育総合研究所の長期研修において「知的障害養護学校における自閉症のある児童生徒の実態把握のポイントを考える 一教師と保護者が子どもの様子を共通理解するための視点づくりの試みー」を研究主題として、自閉症のある子どもの実態把握と支援の取り組みを教師と保護者で共通理解するための実態把握ツールの開発に取り組んだ。そして、子どもの生活状態と支援の取り組みを教師と保護者で共通理解するために、「視点ツール（試案）」を提案した。

さらにこの度、みずほ教育福祉財団の研究助成をいただき「視点ツール（試案）」を学校現場で試用

し、実態把握と支援を図るためのツールの有効性について検討し、改訂に取り組むこととなった。

この「視点ツール（試案）」は、自閉症のある子どもを対象に作成したものであるが、生活の様々な場面および個人の特徴を視点としてリストアップし

てあるので、本ツールはそれ以外の様々な子どもについても使用できるのではないかと考えている。このため本研究では様々な障害種の児童生徒を対象として使用を試みることとした。

目 次

はじめに	1
第1章 研究の目的および方法	4
1. 問題意識と目的	
2. 「視点ツール（試案）」について	
3. 研究の内容と方法	
第2章 「視点ツール（試案）」の検討	6
1. 「視点ツール（試案）」の検討	
2. 「視点ツール改訂版」の作成	
第3章 「視点ツール改訂版」の試用評価	9
1. 教師とのミーティングによる「視点ツール改訂版」の試用評価	
2. アンケート調査による「視点ツール改訂版」の試用評価	
3. 「視点ツール改訂版」の試用事例	
第4章 まとめと今後の課題	20
1. 「視点ツール改訂版」の評価	
2. 今後の開発課題	
3. 今後の使用に向けて	
引用参考文献	22
資料	23

第1章 研究の目的および方法

1. 問題意識と目的

障害のある子どもに適切な支援を図るためにには、将来の自立的な生活を念頭において、子どもの生活や学習などの状態を的確に把握し、子どもの特別な教育的ニーズを明確にする必要がある。筆者の所属校（以下「所属校」）では、心理・発達検査や引き継ぎ資料、日々の情報交換などによって子どもの特徴を把握し、個々の子どもの教育的ニーズと具体的な支援、指導について教師間および教師と保護者間で確認しながら、個別の指導計画を作成している。

しかし、子どもの状態はその時々や場面によって様々であり、教師や保護者によっても子どもの特徴の捉え方は様々である。さらに、自閉症のある子どもにおいては、障害特性や随伴する特異な行動、発達や認知特性のアンバランスな面が理解されにくいため、子どもの実態を的確に把握することは難しい。そのため、所属校で行われている現在の実態把握だけでは、子どもの様々な生活の状態や得意なこと、苦手なことといった特徴を的確に捉えることは、教師のみならず保護者にとっても難しいことが少なくないと感じた。同僚の教師との話し合いでも、同様のことが話題にあがることから、少なからず同じ気持ちを抱いているように感じた。

こういった現状を改善するために、子どもの実態と支援の取り組みを教師と保護者が共通理解することを目的として「視点ツール（試案）」を作成した。

本研究では、以下の3点を目的として研究に取り組む。①「視点ツール（試案）」を学校現場で使いやすいように検討し「視点ツール改訂版」の作成を行う。②「視点ツール改訂版」を試用し、有効性について評価を実施する。③「視点ツール改訂版」の開発課題を明らかにする。

本ツールの試用を通して、教師と保護者が同じ視点で子どもを捉え、適切な支援を検討する機会を持つようになることも、本研究は重要な意義の一つであると考える。

2. 「視点ツール（試案）」について

平成17年度独立行政法人国立特殊教育総合研究所長期研修において提案した「視点ツール（試案）」作成の経緯を以下にまとめた。

この実態把握ツールは、障害のある子どもの現在から将来にわたるライフステージを考慮し、教育現場からの視点、卒業後の生活からの視点、国際基準の支援の枠組みからの視点をもとに作成した。

（1）共通理解するための視点の検討

子どものライフステージを踏まえて、教師と保護者が共通理解するための視点を検討するため、予備研究として次の研究を実施した。（図1）

- ① 卒業後の生活の視点として、所属校の進路先である施設・作業所職員から、学齢期に育てて欲しい生活スキルに関する意識調査を実施。
- ② 教育現場の視点として、知的障害養護学校で開発されたチェックリストと聞き取り調査をもとに、生活領域の項目を検討。
- ③ 国際基準の視点として、「ICF」および「AAMR（米国精神遅滞協会）第10版」の2つのマニュアルから、生活領域から個人を評価する視点と支援の枠組みを参考にした。

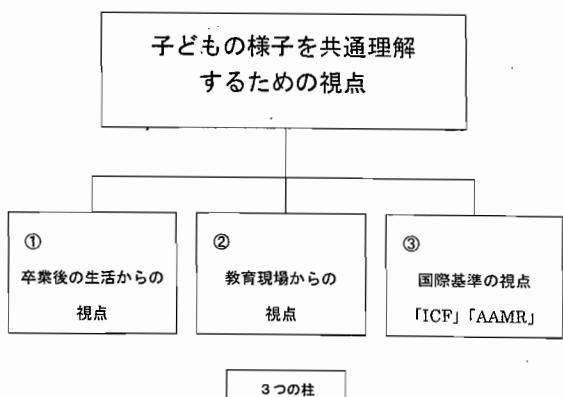


図1 共通理解するための視点の検討

（2）「視点ツール（試案）」の作成

前述の予備研究により「視点ツール（試案）」を作成した。「視点ツール（試案）」は次の3点から構成されていた。

①「視点リストガイドブック」

- ・教師と保護者が共通した意識で「視点リスト（試案）」および「評価カード（試案）」を使用できる

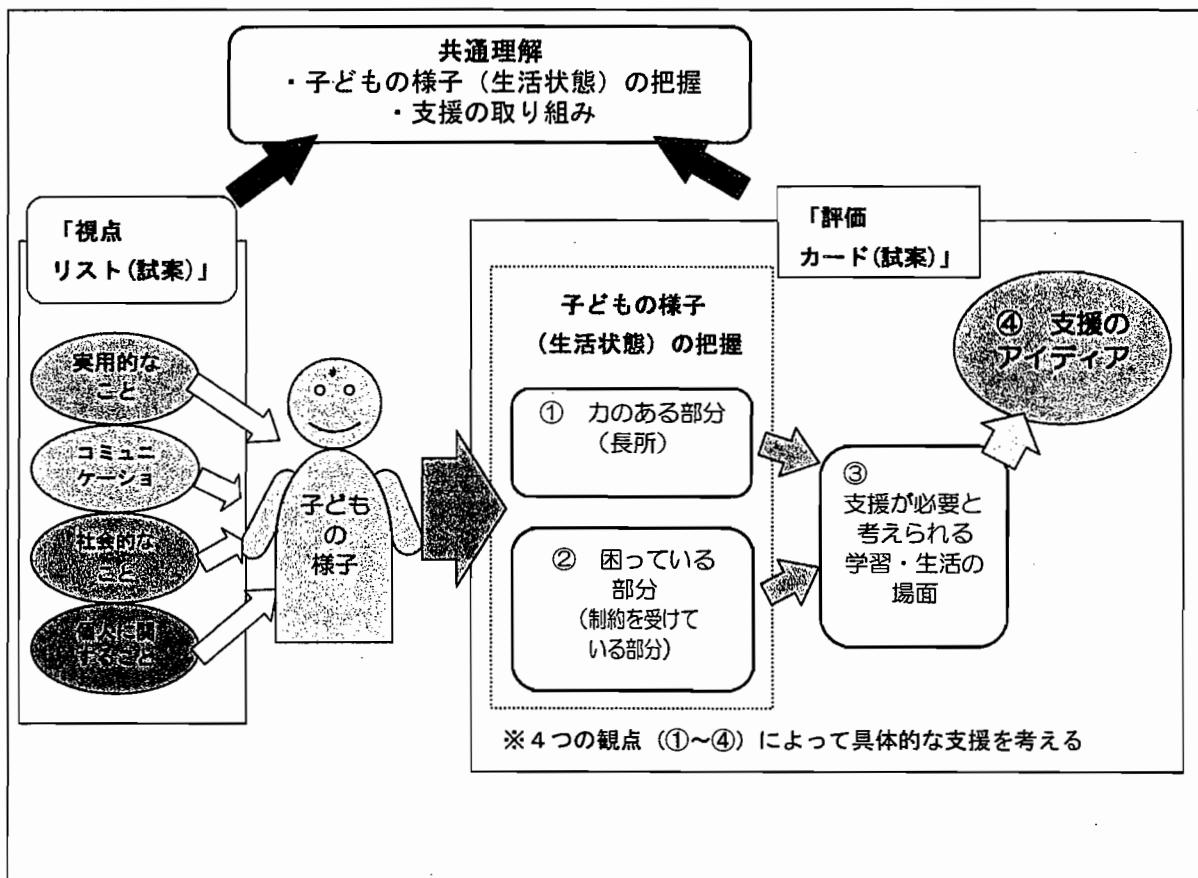


図2 「視点ツール（試案）」使用の流れ

ように、本ツールの趣旨や使用方法などを説明したガイドブック。

②「視点リスト（試案）」

- ・予備研究によってまとめた4領域、135の視点例によって構成される、生活場面を視点例としてリスト化した一覧表。

③「評価カード（試案）」

- ・子どもの様子および支援の取り組みについて、教師と保護者が話し合った内容を記入するためのカード。
- ・“力のある部分（長所）”と“困っている部分（制約を受けている部分）”の2つの観点から子どもの特徴および生活状態を記入。また具体的な支援を記録する“支援のアイディア”欄を設けていた。

3. 研究の内容と方法

本研究では、筆者の所属校である山形県立鶴岡養護学校の全学部（小学部、中学部、高等部）を対象として、各学部に在籍する様々な障害種の児童生徒を対象として「視点ツール（試案）」の試用を実施する。そして、本ツールの有効性について評価を行い、今後の開発課題を明らかにする。

研究の内容と方法を以下に示す。

- ①「視点ツール（試案）」の内容の検討と改訂
 - ・教師と保護者が「視点ツール（試案）」を使用しやすいような形式を検討し、「視点ツール改訂版」を作成する。
- ②「視点ツール改訂版」の試用
 - ・「視点ツール改訂版」を研究協力者である教師と保護者で試用する。
- ③「視点ツール改訂版」の評価
 - ・「視点ツール改訂版」の評価を行い、開発課題を明らかにし、学校現場にとって使いやすいツールの在り方を検討する。

第2章 「視点ツール（試案）」の検討

「視点ツール（試案）」を試用するにあたり、本ツールが教師および保護者にとってより分かりやすく、より使いやすいものにする必要があると考えた。本章では「視点ツール（試案）」を試用するにあたり、研究グループのメンバーである筆者の所属校の教師と第1回目のミーティングを行い、「視点ツール（試案）」の内容を検討し、改訂に取り組んだ。

1. 「視点ツール（試案）」の検討

「視点ツール（試案）」の試用を通じて子どもの生活状態を正しく評価し、共通理解を図るために、本ツールを使用する人が誰でも容易に趣旨を理解して適切に使用することが大切である。そのため「視点ツール（試案）」の趣旨や使用方法を明確に説明すること、専門的な言葉を極力避けて誰にでも分かりやすい言葉を使用すること、両者（教師と保護者）にとって使用による負担感をできるだけ少ないようになることなどに配慮して作成しなければならないと考えられた。

試用前に実施したミーティングでは、本ツールの使用に関する疑問点や改善点について話し合い、「視点ツール（試案）」の内容を検討した。話し合いの概要を以下にあげる。

①「視点リストガイドブック」について

- ・ツール使用の目的が少し分かりにくい。日常生活において支援が必要であるという課題点を明らかにするために作成したツールであるという目的をさらに明確にする必要がある。
- ・保護者にとって分かりにくい表現がある。堅苦しくなく素直な言葉（表現）を使用することを大切にしたい。
- ・子どもを評価するための2つの観点 “力のある部分（長所・できること）” “困っている部分（制約を受けている部分）” の意味が分かりにくい。
- ・子どもの生活状態を2つの観点の両面から捉えるというイメージが持ちにくい。
- ・全ての視点例を記入する必要はないようだが、その点についての説明が読みとりにくく、結局多く

記入してしまい負担感が増すのではないか。

②「視点リスト（試案）」について

- ・どのように記入するのか、具体的な書き方が分かりにくい。記入例があることで記入の際の視点や記入方法が共通化しやすくなるのではないか。
- ・“チェックBOX”的欄が意味することがわかりにくい。“チェック”的表現だと子どものことを「できる、できない」といった否定的な意味で捉えてしまう可能性があり、本ツールの趣旨と違ってくるのではないか。

③「評価カード（試案）」について

- ・記入された全ての視点を評価カードに記入することで記入する負担が増し、保管するカードも多くなり煩わしさが出てくる。
- ・教師と保護者それぞれに「評価カード」を提供するようだが、保護者は具体的な支援方法がなく困っていると考えられるため、保護者への評価カードの用意は必要ないのではないか。

2. 「視点ツール改訂版」の作成

前項あげた「視点ツール（試案）」の検討によって、同様に3点のツールから構成される「視点ツール改訂版」を作成した。なお、「視点ツール改訂版」の原版を資料1に示した。

①「視点リストガイドブック改訂版」（図3）

- ・日常生活において支援が必要であるという課題点を明らかにするために作成したツールであるという本ツールの趣旨、使用の目的等を明記した。
 - ・保護者にとって分かりやすいように、堅苦しくなく分かりやすい表現に変更した。
 - ・子どもを評価するための2つの観点の表現を分かりやすい表現に変更。“力のある部分（長所・できること）” “困っている部分（制約を受けている部分）” の表現を、それぞれ “得意なところ、できるところ” “困っているところ、苦手にしているところ” の表現に変更した。
 - ・子どもの生活状態を2つの観点から捉えるということをできるだけイメージしやすいように具体例と図解によって説明した。
- “得意なところ、できるところ” …できること、

子どもの生活の「視点リスト」について

「視点リスト」は、子どもの生活の様子を保護者と教師が共通の視点で捉えられるように、日常の生活を様々な視点としてリストアップしたものです。

「視点リスト」にある様々な視点を見て、子どもの生活の様子について特徴のあることを記入します。

【記入の仕方】

「視点リスト」を見て、子どもの生活の様子で“特徴のあること”や“重複的に支援を考えたいこと”に絞って記入します。

※「視点リスト」を一通り見て、気づいたこと、書くことができそうな視点がある程度チェックすると記入しやすいと思います。

話し方はこうで、好きな遊びはこんなことで…。

リストにある視点の全てを記入する必要はありません。書ける範囲で記入してください。

支援を考
え
る
方
法
ス
テ
ッ
プ
ト
リ
ス
ト

例えは…

『b201 文字を読むこと』の視点の場合…

- “得意なところ、できるところ”は、「ひらがなの本を読むことができる」です。
- “困っているところ、苦手にしているところ”は、「周りを気にして読みない時がある」「読みめない文字があると困って泣いてしまうことがある」です。

1つのことを両面から捉えてください。

周りが気にならないように、ついたてを用意する。
楽しく過ごせるように、読みやすい本をたくさん用意する。

安心できる、過ごしやすい生活づくり

書けるところから取り組んでみてください。

図3 「視点リストガイドブック改訂版」の一例

自分でしていること。

“困っているところ、苦手にしているところ”…
自分ですることが難しい、支援が必要と考えられること。

・全ての視点例を記入する必要はないことを強調した。生活状態を具体的に書けない視点例については書かないで斜線を引くよう説明文を追加した。

②「視点リスト改訂版」(図4)

- ・具体的な書き方が分かりやすいように、全視点例に記入例を用意した。
- ・記入例を参照しながら記入できるように、ページ見開き上段のページに記入例を、下段に記入用紙を設定した。
- ・“チェックBOX”的表現を“優先項目”という表現に変更。“優先項目”欄には優先的に支援を

考えたい面（視点）を明確にできるように、◎（第1優先度）・○（第2優先度）の2段階によって支援の必要性を記入することとした。また、支援の取り組みを焦点化するために、優先して支援を考えたい面（視点）を2～4程度に絞ることを「ガイドブック」の中で説明した。

注) 各視点にあるコードNO.は視点を分類・整理するために付けたものである。DSM-IV、ICFのように評価点のためのコードではない。

③「評価シート」(図5)

- ・視点リストの優先項目にあげられた視点に対して、評価カードを使用する。本シートは個別面談（教師と保護者）による話し合いの際に教師が使用し、具体的な支援の取り組み内容を記録する。

「視点リスト」記入例						
領域	項目	コードNO.	視点	生活の様子		
				視点の内容	得意なところ、できるところ	
a1 基本的日常生活（身辺処理）						
身体 利用 能 力 を 使 用 す る 方 法	食べること	a111	食器の使い方	使用する食器の種類（スプーン、フォーク、はし、補助皿など）、使い方（表器の通り方、持方法）など	<ul style="list-style-type: none"> ・握りやすく食べることができる。 ・補助スプーン、補助皿を使うことができる。 ・なんでも匙さすことができる。 ・食事の量は少なく、匙がいい感じになると勇気をもって召えてくれる。 ・自分で匙と叉籠が好き。 ・補助皿と身以外はほとんど食べることができます。 ・島らみ匙を使つて召べることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・つまんで食べる人が多い。 ・匙が前に出でてお野菜がくれて食べにくくなる。 ・あるだけの量を食べるまで、食べ過ぎてしまう。 ・お腹がいっぱいになると食器をのけたり、椅子から落ちてしまいやすい。 ・給食などで食べる人が多いと全然食べない。 ・食べたくない物をまでつまんで床に落とすことがある。 ・せんべいなどの硬い物やお餅はめんどくないので、食べない。
		a112	食事の量や頻回	過度、少食、過量など	<ul style="list-style-type: none"> ・食事の量や頻回 	<ul style="list-style-type: none"> ・あるだけの量を食べるまで、食べ過ぎてしまう。
		a113	好適性1	好きな食べ物を自分で召べる	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で匙と叉籠が好き。 ・補助皿と身以外はほとんど食べることができます。 ・島らみ匙を使つて召べることができます。 ・早く食べることができます。 ・箸で召べることができます。 ・洋芋がおもしらないように、テーブルの端で食べている。 ・お腹がすくと好きなものも食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたくない物をまでつまんで床に落とすことがある。 ・せんべいなどの硬い物やお餅はめんどくないので、食べない。 ・振りが足りなくて、箸がすぐてしまいややすい。 ・近くの人を気にするときじょうよく召べるので、だんだん落ち起きがなくなります。 ・授乳ができない人と、大きい声で泣いてしまうことがある。 ・おやつや朝食があると、何もできないので辛いようだ。 ・「いいらない」と言ふと、他の物も食べなくなることがある。
		a114	食べ方	噛み方、飲み方、特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・早く食べることができます。 ・箸で召べることができます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食べたくない物をまでつまんで床に落とすことがある。 ・せんべいなどの硬い物やお餅はめんどくないので、食べない。
		a115	食べる時の態度	場所、座りかた（姿势）、座る位置など	<ul style="list-style-type: none"> ・座りかた（姿势）、座る位置など 	<ul style="list-style-type: none"> ・振りが足りなくて、箸がすぐてしまいややすい。 ・近くの人を気にするときじょうよく召べるので、だんだん落ち起きがなくなります。
		a116	間食	間食の有無、間食をする時間、食べるものの種類など	<ul style="list-style-type: none"> ・お腹がすくと好きなものも食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おやつや朝食があると、何もできないので辛いようだ。
		a117	食事に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいらない」と言ふと、他の物も食べなくなることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいらない」と言ふと、他の物も食べなくなることがある。
	排泄	a121	排便のコントロール	自分でトイレに行く、定時での声かけ、訴え方など	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけるとトイレに行くことができる。 ・もよおすと、馬鹿の顔を行つて我慢することができる。 ・排泄トイレに座つておしつこ、うらもすることができる。 ・人がいない時にやっておしつこ、うらもすることができる。 ・男子排便者の前に立つておしつこをすることができる。 ・バットにして、おしつこをするとき股を開いて見ついている。 ・様式トイレに座つてることができます。 ・オムツにうらもをして、おしりをひいて我慢してくれる。 ・文機（かわせみ）は、大きめに近づけて腰を引っ張つて我慢してくれる。 ・戸をかけると手を掩うことができる。 ・いつまでも手をいじつこう。 ・ある程度訓練してオムツににするので困れがない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけないといまでもトイレに行かない。 ・トイレに迷つて行くと我慢してしまう。 ・決まつたトイレにいかない。 ・トイレで我慢つても誰が入ららない。麻痺をすると泣いてしまう。 ・ズボンを脱ぎで下着してよく見ないでおしつこするので、洋服がある。 ・おしゃつこしたことで気づきにくいので、隠れてしまうことがある。 ・おしゃつこしないで我慢できることもある。 ・トイレうらもがまだない。 ・自分で我慢した結果がまだない。 ・気づいてもらえない時や伝えたい人がいない時は、隠れてしまうことがある。 ・戸をかけると泣いてしまう。 ・戸をかけると水を撒んでしまうことがある。 ・1日のおしつこの量が多くなって、おふろでしまいやすい。
		a122	排泄時の環境			
		a123	排尿のしかた	送迎、衣類の状態（ズボンやチャックの下しし方）、自立の程度（自分でできること）、特徴のあること		
		a124	排便のしかた	坐浴、貢服の状態（オボンなどの下しし方）、坐浴（排泄方）、自立の程度（自分でできること）、特徴のあること		
		a125	生便の手当	用品の理解、便いり、自立の程度など		
		a126	排泄後の手洗い	手洗いの有無、様子など		
		a127	排泄に関する特記事項	上記の他に特徴のあること		

「視点リスト」記入用紙					
領域	項目	コードNO.	視点	生活の様子	
				得意なところ、できるところ	困っているところ、苦手にしているところ
a1 基本的日常生活（身辺処理）					
身体 利用 能 力 を 使 用 す る 方 法	食べること	a11	食器の使い方		
		a112	食事の量や頻回		
		a113	好き嫌い		
		a114	食べ方		
		a115	食べる時の態度		
		a116	間食		
		a117	食事に関する特記事項		
	排泄	a121	排便のコントロール		
		a122	排泄時の環境		
		a123	排尿のしかた		
		a124	排便のしかた		
		a125	生便の手当		
		a126	排泄後の手洗い		
		a127	排泄に関する特記事項		

図4 「視点リスト改訂版」の一例

記入月日:	月	日	
コードNO.		視 点	
◎困っているところ、できるところ			
・どんなときに(場面、状況)			
・どんなことを			
備考			
考え方 考え方される学習・生活の場面(支援や活動について)			
※ 支援のアイディア(援助することで自分ができると考え方されること)			

図5 「評価シート」

- 子どものことを両面から見たのははじめてで、良い経験をしたと（保護者が）話していた。
- しかし、記入することにかなり根気がいる。熱心な保護者でないと記入する負担感があると思う。
- 具体的にどういう部分から支援を図ればいいのか。個別の指導計画につなげるためにはどうすればいいのか。
- 家庭での様子は参考になる。
- 今まで取り組んできたことが成果として見られた。
- 学校と家庭とで様子が違う部分があった。
- 伸びてきた点が分かった。
- 本人の良い点を今後伸ばしていきたい。
- “困っているところ、苦手にしているところ”的記入について。本来なら子どもの困り感を記入すべき所だが、保護者の困り感を記入しているケースがあった。
- 個別の指導計画に繋がる部分をこの視点ツールからどのように捉えるかが今後の課題では。

第3章 「視点ツール改訂版」の試用評価

本章では、「視点ツール改訂版」の試用を通して、研究グループである所属校の教師と第2回目のミーティングを実施した。また、本ツールを使用した教師および保護者に対してアンケート調査を実施した。その結果をまとめ、本ツールに対する保護者および教師の評価を明らかにした。

1. 教師とのミーティングによる「視点ツール改訂版」の試用評価

「視点ツール改訂版」を試用しての感想、情報交換を目的としてミーティングを実施した。話し合いの主な内容を以下にあげた。

- 優先項目（優先して支援を図りたい視点項目）に記入された◎(第1優先)が、教師と保護者で違っていた。
- 保護者はかなり細かく記入してくれた。

以上の話し合いから、「視点ツール改訂版」の試用を通して、教師と保護者で子どもの捉え方や優先して支援を考えたい視点に違いがあると感じていることが分かった。また、「視点リスト改訂版」に記入したことでの子どもの状態の把握が的確になり、その当時の子どもの状態と、約1ヶ月後に実施したミーティング時の子どもの状態の変化に気付く等、状態像の変化に気付きやすくなる可能性が示唆された。

課題点では、記入の負担感、優先して支援を図りたい視点の焦点化の方法、個別の指導計画に繋がるツールの在り方としてさらなる検討が必要であることがあげられた。また、記入者の考え方によって「視点リスト改訂版」に記入した内容が若干変化する場合がある（子どもの立場または保護者の立場のどちらの視点で“困っていること”を捉えるか、記入するか、で内容が違ってくる可能性があることも予想される）ため、ガイドブックの内容を検討する必要があると考える。

2. アンケート調査による「視点ツール改訂版」の試用評価

1) 調査方法

(1) 調査対象

「視点ツール改訂版」を試用した所属校の教師ならびに保護者を対象として調査を実施した。回答者の内訳については以下のとおりである。

- ・教 師 10名 … 小学部 5名、中学部 3名、高等部 2名
- ・保護者 14名 … 小学部 8名、中学部 3名、高等部 3名

(2) 調査期間

2006年12月に実施した。

(3) 調査方法

研究協力者である教師ならびに保護者が試用（記入）した「視点ツール改訂版」とアンケート調査用紙によって構成されたものが本調査票である。

試用した「視点ツール」は、次の3点によって構成されている。（資料1）

①「視点リストガイドブック改訂版」（以下「ガイドブック」）

「視点ツール改訂版」作成の趣旨ならびに使用方法を説明したガイドブック。

②「視点リスト改訂版」（以下「視点リスト」）

日常生活での子どもの状態を把握するための視点を整理し、視点例としてリスト化した一覧表。4領域、135の視点例によって構成されている。A4サイズの用紙横向きで作成。ページ見開きの上段に記入例を、下段に記入用紙を設定している。

③「評価シート」

「視点リスト」によって把握した子どもの生活状態から、支援が必要と考えられる部分を教師と保護者で共通理解し、具体的な支援の取り組み方法を記録するA4縦型のシート。

本調査では「視点ツール改訂版」に対する評価ならびに試用しての意識調査を実施した。回答形式は、選択式および自由記述式の質問用紙をもって回答を実施した。資料2にアンケート調査用紙を示した。なお、本調査では、対象児について教師と保護者そ

れぞれが記入した「視点リスト」を参照した上で記入するように依頼した。

2) 結 果

アンケート調査の各質問に対する回答結果を以下に示す。

設問1 「ガイドブック」について

- ①「ガイドブック」の1ページ目にある“はじめに”の説明では、使用の目的が明確にされていましたでしょうか。

[評価 4：分かりやすい 3：だいたい分かる
2：部分的に分かりにくい 1：分かりにくい]

回答者	評 価			
	4	3	2	1
教 師	7	3		
保護者	4	9	1	

- ②2ページ以降にある、“記入の仕方”全体の説明は分かりやすいものだったでしょうか。

回答者	評 価			
	4	3	2	1
教 師	6	4		
保護者	5	8	1	

- ③1から3までの各ステップの説明は分かりやすかったでしょうか。

回答者	評 価			
	4	3	2	1
教 師	5	5		
保護者	5	7	2	

- ④その他、「ガイドブック」に関する具体的な意見・要望等をお書きください。

【教師】

- ・図とフローチャートが入っていて、分かりやすいと思った。
- ・「視点リスト」という言葉自体分かりにくいのでは。（我々が使う場合はいいのですが）保護者に渡す場合は、もっと簡単で分かりやすい表現（子どもをもっとよく理解するため第3者がパッと見ても伝わるような言葉）が相応しいのでは。

- ・“アセスメント”という言葉に（ ）書きで日本語で意味を表示するとか、“ツール”は道具という意味であるという記述があるといい。

【保護者】

- ・今すぐとはいわないが、このガイドブックを見ながら子どもの特技を伸ばしたり、将来的自立に向けての訓練をしたりしていただけるとありがたい。細かいところまで書いたが、子どもの姿を分かってもらえるには良かったのかなと思う。
- ・絵や矢印が分かりやすかった。
- ・説明は全部で1／2～1ページに短くまとめてほしい。ここまで読むだけで時間がかかり、先に進む元気を損ねてしまう。
- ・「視点リスト」の記入例を見て記入してしまい、「ガイドブック」の記入の仕方と微妙に違っていたのが少し分かりにくいと思いました。

③ 各視点を“得意なこと”と“苦手なこと”的面から捉えて記入する、という把握のしかたは記入しやすいものだったでしょうか。

[評価 4：記入しやすい 3：だいたい記入できる
2：部分的に記入しにくい 1：記入しにくい]

回答者	評 価			
	4	3	2	1
教 师		8	2	
保護者	6	4	3	1

④ “優先項目”の欄について

具体的な支援を考えるために、“優先項目”的欄を設定し、◎と○の2段階で記入していただきました。このことで保護者と教師間で支援を図りたいことが明確になったでしょうか。

[評価 4：明確になった 3：ほぼ明確になった
2：あまり明確にならない 1：明確にならない]

回答者	評 価				
	4	3	2	1	未回答
教 师	1	5	4		
保護者 a)	5	1	3	1	2

a): n=12

特記事項

【教師】

- ・保護者と教師の優先順位が異なり、絞ることが難しい面もあった。
- ・発達が緩やかな児童の場合、長いスパンでないと変容が見られないところもあり、特別な手だけは取ることなく、普段の指導の確認となってしまった。

⑤ 保護者と教師それぞれで、子どもの特徴について気づいたことを記入しました。このことで、子どもの様子について気づいた点はありますか。最も考えに近い数字を記入してください。

[評価 4：ほぼ同じ内容だった 3：知らなかった面があった
2：様子の捉え方に違いがあった 1：分からない]

回答者	評 価			
	4	3	2	1
教 师		9	1	
保護者 a)	6	6		

a): n=12

特記事項

【教師】

- ・例えば、食事一つの側面を取り上げてみても、学校と家庭での様子は異なり、2つ読み比べてみて興味深かった。
- ・お風呂や散髪等、学校では知り得ない様子も家庭からの記述から分かり、大変参考になった。
- ・保護者と教師の見たての違いをチェックすることができた。

(2) 「視点リスト」の使い方について

- ① 保護者と教師の双方で子どもの様子を記入してもらいました。このことで子どもの様子について把握できたでしょうか。

[評価 3:だいたい把握できた 2:よく分からない
1:あまり把握できなかった]

回答者	3	2	1
教 師 a)	9		
保護者	12	1	1

a):n=9

- ② 「視点リスト」をもとに、具体的な支援をはかることができたでしょうか。

[評価 3:はかることができた 2:よく分からない
1:はかることができなかつた]

回答者	3	2	1
教 師	3	5	1
保護者	6	7	1

a):n=9

- (3) その他、「視点リスト」に関する具体的な意見・要望等をお書きください。

【教師】

- ・ついいろいろな視点に記入してしまった。分類や項目が違っても同じようなことを書く部分がいくつかあると思われる。
- ・家庭と学校2つの側面から、子どもの様子を多面的に捉えることができるよいきっかけになった。

- ・生徒の実態について分かっていたつもりであったが、一つ一つ項目を追って確認すると、かなり漠然と捉えていることが分かった。また、保護者側からのニーズがリストを通して明確になり、支援する上でとても参考になった。
- ・やはり、記入例と記入欄は横にあった方が見やすく、記入時間も短くて済む。
- ・学校で具体的に取り組めるような“日常生活の指導”的内容に絞って記入した方が小学部段階では使いやすいと思う。
- ・各項目が関連しているようなところもあり、記入の仕方で迷うことがあった。より記入しやすいように項目をまとめることはできないか。
- ・同じような記入になってしまふところが出てきて、どちらのリストの項目に書いたらよいか迷うことがあった。
- ・教師側にとってはこれだけ欲しい項目ですが、保護者にとってはかなりの分量ですよね。誰でもどの親でも書けるという分量ではないという所がネックです。
- ・視点リストを教師側でまとめて、学校で見られる得意、不得意（改善したい面）での表を作ってみた。それをもとに個別面談を始めた時に役だったと思う

【保護者】

- ・かなり細かいところまでのっているのには正直びっくりした。今後就学前のお子さんを持っているお母さん達に話したいと思う。就学前に不安に思っている方がいるので、養護学校ではここまでしているんだよ、と言うことを話したい。本当にありがとうございます。

また、発達外来のお医者さんに受診する時、この「視点リスト」を見てもらうことをお願いしたいです。医者が子どもの状態を把握して、的確なアドバイスを受けるにはいいと思う。

- ・記入例があって分かりやすかった。もし、なかつたら何を書けばいいか分からないところが多かったと思う。

- (視点項目の) a1 から順に書いていったが、一度全体に目を通して、第1優先、第2優先を書いてから他の視点を書けば良かったかも。かなりの量でなかなか進まなかった。
- ・先生との共通理解ができるよう掘り下げて話す機会を設けてもらいたい。
 - ・意図は分かるが、全て記入式なのでとても時間がかかる。また、対応についてもいちいちチェックするのが大変であろうし、支援をしようという意欲につながりにくいと思った。項目、分野を選択して、1つの分野についてチェックし、その項目に重点的に取り組む方が成果を得やすいと思った。
 - ・「得意なところは何だろう」と一生懸命考えてみると、今までの様々な出来事が思い出されて「こんなこともそういえば出来るんだっけ」などと思い直すことができて、子供に対する見方や接し方が変わったようにも思える。

設問3 「評価シート」について ※教師のみ回答
(1) 「評価シート」にある各記入欄は記入しやすいものだったでしょうか。以下の3点についてお答えください。

[評価 4: 記入しやすい 3: だいたい記入できる
2: 部分的に記入しにくい 1: 記入しにくい]

① 困っているところ、苦手にしているところ（どんなときに（場面、状況）、どんなことを）

回答者	評価			
	4	3	2	1
教 師	4	3	1	
				n = 8

② 考えられる学習・生活の場面（支援や活躍について）

回答者	評価			
	4	3	2	1
教 師	1	7		
				n = 8

- ③ 支援のアイディア（援助することで、自分でできると考えられること）

回答者	評価			
	4	3	2	1
教 師		6	2	

n = 8

- (2) 「評価シート」に関する意見、要望等をお書きください。

- ・記入はしやすいものであると思うが、特になくても進めることはできる。結果や過程の記録を残すためのシートならば記入できるが。
- ・記入欄が広くなつて、書きやすくなつたと思う。
- ・個別の指導計画作成時や保護者との面談の時に話題にできて良かった。

※保護者の意見

- ・教師の立場から各項目で保護者がどのようにコメントしてもらっているか目を通すことで、学校生活だけでは分からない生徒の様子（長所・短所）が分かり、支援に役立てることができると感じている。（特に細かく書いてくれた保護者ほど）しかし、保護者の立場からだと記入に時間がかかるということをいつ面があった。事前に書ける範囲でいいというコメントはもらっていても、いざ書き始めるとな時間がかかる。

設問4 「視点リスト」の構成について

- (1) 「視点リスト」の構成は、子どもの日常生活の様子を把握、整理する上で分かりやすいものだったでしょうか。各視点の分かりやすさについて2段階で評価してください。

[評価 2: 分かる 1: 分かりにくい]

		評価		
		回答者	2	1
		未回答		
a 1 基本的日常生活(身辺処理)				
a11 食べること	a111 食器の使い方	教師	10	
		保護者	13	1
a112 食事の量や頻度		教師	9	1
		保護者	13	1
a113 好き嫌い		教師	10	
		保護者	13	1
a114 食べ方		教師	9	1
		保護者	13	1
a115 食べる時の環境		教師	8	2
		保護者	13	1
a116 間食		教師	8	2
		保護者	13	1
a12 排泄	a121 排泄のコントロール	教師	9	1
		保護者	11	1 2
a122 排泄時の環境		教師	8	1 1
		保護者	9	2 3
a123 排尿のしかた		教師	9	1
		保護者	11	1 2
a124 排便のしかた		教師	8	1 1
		保護者	10	2 2
a125 生理の手当		教師	8	2
		保護者	7	3 4
a126 排泄後の手洗い		教師	9	1
		保護者	11	1 2
a13 滌潔	a131 手を洗うこと	教師	10	
		保護者	13	1
a132 うがいをすること		教師	8	2
		保護者	12	2
a133 齒を磨くこと		教師	10	
		保護者	13	1
a134 頭を洗うこと		教師	9	1
		保護者	12	2
a135 爪をきること		教師	8	1 1
		保護者	12	1 1
a136 体を洗うこと		教師	8	1 1
		保護者	13	1
a14 衣類の着脱	a141 衣類を着ること	教師	9	1
		保護者	12	2
a142 衣類を脱ぐこと		教師	9	1
		保護者	13	1
a143 ボタンやファスナーの 着脱		教師	9	1
		保護者	11	3
a144 届き物を届くこと		教師	9	1
		保護者	11	3
a145 届き物を脱ぐこと		教師	9	1
		保護者	12	2
a146 衣服の調節		教師	7	2 1
		保護者	11	1 2
a147 着替えをする場所		教師	7	1 2
		保護者	11	3
a 2 家庭的生活				
a21 一般的な家事	a21.1 掃除をすること	教師	8	1 1
		保護者	11	1 2
a21.2 洗濯をすること		教師	8	1 1
		保護者	7	5 2
a21.3 料理の準備をすること		教師	8	1 1
		保護者	10	2 2
a21.4 食事の片付け		教師	8	1 1
		保護者	11	1 2
a21.5 調理をすること		教師	8	1 1
		保護者	9	2 3
a21.6 喫好品など		教師	8	1 1
		保護者	9	3 2
a21.7 火を扱うこと		教師	8	1 1
		保護者	9	3 2
a21.8 その他のお手伝い		教師	8	2
		保護者	9	2 3
a22 身だしなみ	a22.1 身なりを整えること	教師	10	
		保護者	9	3 2
a22.2 床屋、美容院の利用		教師	8	1 1
		保護者	10	3 1
a23 整理整頓	a23.1 物を整理すること	教師	10	
		保護者	11	2 1
a23.2 衣類の手入れをするこ と		教師	8	2
		保護者	10	2 2

社会的生活				
		a31 健康・医療	a311 身体が悪い時	教師
			保護者	9 1 1
		a312 休息すること	教師	8 1 1
			保護者	11 2 1
		a313 服薬すること	教師	9 1
			保護者	13 1
		a314 病院、歯科医を利用す ること	教師	9 1
			保護者	12 2
		a315 医師などと接する時の 様子	教師	8 1 1
			保護者	13 1
		a32 移動・ 交通機関の 利用		
		a321 産外での移動	教師	9 1 1
			保護者	11 2 2
		a322 交通機関の利用	教師	9 1
			保護者	11 1 2
		a323 乗車時の様子	教師	9 1
			保護者	10 1 3
		a324 交通ルール	教師	8 1 1
			保護者	9 2 3
		a33 買い物		
		a331 お金を使うこと	教師	9 1
			保護者	10 2 2
		a332 買い物をすること	教師	9 1
			保護者	9 3 2
		a333 自動販売機の利用	教師	8 1 1
			保護者	10 1 3
		a334 お金のやりとり	教師	8 1 1
			保護者	9 3 2
		a34 電話の使用		
		a341 電話を使うこと	教師	7 1 2
			保護者	8 3 3
a 4 余暇生活				
		a401 自由な時間の過ごし方	教師	8 2
			保護者	12 2
		a402 好きなこと	教師	8 1 1
			保護者	12 2
		a403 人と関わる活動	教師	8 1 1
			保護者	11 1 2
		a404 塗化製品を使用するこ と	教師	8 2
			保護者	11 1 2
a 5 勉強に関するこ				
		a51 作業(製作活動)に對 する理解	教師	6 4
			保護者	9 3 2
		a512 作業(製作活動)をす る様子	教師	6 4
			保護者	9 3 2
		a513 勉強(製作活動)	教師	7 3
			保護者	7 4 3
		a514 周囲の人と関わること	教師	6 2 2
			保護者	7 4 3
		a52 作業(製作活動)の理 解		
		a521 自分の役割(活動)に 対する理解	教師	7 2 1
			保護者	6 5 3
		a522 作業(活動)の流れの 理解	教師	6 3 1
			保護者	8 4 2
		a523 作業(活動)の達成の 理解	教師	5 4 1
			保護者	8 4 2
		a524 施設や作業所での活動 の経験	教師	7 2 1
			保護者	6 3 5
a 6 安全				
		a601 危険なことの理 解	教師	8 2
			保護者	9 2 3
		a602 危険なことを呼びかけ た時	教師	7 1 2
			保護者	9 2 3
		a603 身を守ること	教師	7 1 2
			保護者	8 3 3
		a604 突発的な事態に對して の行動	教師	7 1 2
			保護者	8 3 3

b 1 コミュニケーション	
b11 ことばを受けとること (受容言語)	b111 物の名前やことばの意味の理解 教師 0 1 保護者 11 1 2
	b112 話し言葉の理解 教師 0 1 保護者 10 1 3
	b113 話し言葉以外のことばの理解 教師 7 2 1 保護者 11 1 2
	b114 書き言葉によるメッセージの理解 教師 7 1 2 保護者 0 2 3
b12 ことばを表すこと (表出言語)	b121 話すこと 教師 8 1 保護者 11 1 2
	b122 話し言葉以外のことばの表し方 教師 8 1 1 保護者 13 1
	b123 書き言葉によるメッセージの表し方 教師 8 2 保護者 9 2 3
b13 やりとり・会話	b131 基本的なあいさつ 教師 0 1 保護者 12 2
	b132 いろいろな場面でのあいさつ 教師 8 1 1 保護者 10 2 2
	b133 慮思の伝え方 教師 8 2 保護者 11 3
	b134 様々な状況に応じたこいさつ とはのやりとり 教師 7 2 1 保護者 10 1 3
	b135 人とのやりとり 教師 9 1 保護者 10 1 3
	b136 電子機器などを使用したコミュニケーション 教師 8 2 保護者 9 3 2
b 2 読むこと、書くこと	
	b201 文字を読むこと 教師 8 2 保護者 8 2 4
	b202 文字を書くこと 教師 8 1 保護者 8 2 4
	b203 自分のことについて 教師 8 2 保護者 8 2 4
	b204 標識や掲示などの文字の理解 教師 8 2 保護者 0 2 3
	b205 読むことや書くことに関する特記事項 教師 8 2 保護者 8 2 4
b 3 数の概念・応用	
b31 数	b311 数字 教師 9 1 保護者 9 1 4
	b312 計算すること 教師 8 1 保護者 8 3 3
	b313 数に対する興味や関心 教師 9 1 保護者 8 2 4
	b314 金額の理解 教師 0 1 保護者 8 2 4
b32 時計	b321 時計を読むことなど 教師 8 1 保護者 6 4 4
	b322 時間を理解すること 教師 8 1 保護者 8 2 4
b33 カレンダー	b331 カレンダーの理解 教師 8 1 1 保護者 7 3 4

特記事項

【教師】

- 文例があったことで分かりやすかった。
- “a5 職業に関するここと”は重なってしまう所があるのであるのでは？
- 小学部、中学部の方も作業の様子については、家庭では書きにくい。

c 1 対人関係	
c101 人に会った時の扱し方 教師 8 1 1 保護者 11 2 1	
c102 要求や拒否などがある時の扱し方 教師 0 1 保護者 12 1 1	
c103 人との距離のおき方 教師 6 2 保護者 10 2 2	
c104 応れあうこと 教師 9 1 保護者 11 1 2	
c105 自分や他の人のを意識する様子 教師 8 1 保護者 10 2 2	
c 2 集団への参加	
c201 集団の場所での様子 教師 9 1 保護者 11 1 2	
c202 集団の中での様子 教師 8 1 1 保護者 10 2 2	
c203 集団活動時のルールの理解 教師 9 1 保護者 9 3 2	
c 3 責任	
c301 自分の役割に対する意識 教師 8 1 1 保護者 10 2 2	
c302 責任に関する特記事項 教師 8 2 保護者 10 2 2	
c 4 自己管理・自己決定	
c401 自分の行動をコントロールすること 教師 8 1 1 保護者 8 4 2	
c402 自分の身のまわりのこと 教師 9 1 保護者 11 1 2	
c403 自己紹介・自己決定すること 教師 8 4 2 保護者 8 8	
c404 日常に変更があった場合 教師 8 3 保護者 9 2	
c405 自分の生活を計画すること 教師 8 2 保護者 7 5 2	
c 5 自信を持っていること	
c501 意見を述べる活動や役割 教師 8 2 保護者 9 2 3	
c502 進んで取り組む時の様子 教師 8 2 保護者 7 4 3	
c 6 きまり、ルール	
c601 基本的なきまりを守ること 教師 8 2 保護者 8 3 3	
d 1 パーソナリティー（人柄について）	
d101 性格について 教師 9 1 保護者 11 2 1	
d102 個性的な特徴 教師 8 1 1 保護者 10 2 2	
d103 興味・関心の高いことから 教師 9 1 保護者 11 2 1	
d 2 夢中になること（こだわること）	
d201 夢中になること 教師 8 2 保護者 12 2	
d202 こだわること 教師 9 1 保護者 12 2	
d 3 感覚	
d301 感覚面で特徴的なこと 教師 8 1 1 保護者 9 4 1	
d302 皮膚の感覚面で特徴的なこと 教師 7 2 1 保護者 9 3 2	
d303 自分を刺激するような行動 教師 8 1 1 保護者 7 4 3	

(2)「視点リスト」で設定した視点のほかに、子どもの生活の様子を共通理解するために必要またはあるといふと思う視点はあるでしょうか。あると思う場合、その視点（場面）をお書きください。

【教師】

- “a13 清潔”に汗の始末について自分で行えるかという点も入れたい。

【保護者】

- 各項目で学校内と自宅での違いがあるかないかの確認ができるのではないか。
- かなりの多岐にわたって、項目がのせてあり、いいと思う。もし、年齢段階（小学部→高等部に移行）に応じていくと、例えば、高等部段階では社会性に関わる項目の記入が増えて

いくのかなと思った。

- “a114 食べ方”の中にマナー的なものも入れたい。
- 「その他個人に関すること」で、子どものことをもう少し客観的に見られるように「性格や良いところ」などがもう少し細かく分けられていてもいいのかも…と思いました。

5 「視点ツール」全般について率直な意見、要望等をお願いします。

【教師】

- 保護者と教師、それぞれの優先項目は明確になったと思う。が、その項目が全く違うため、面談できちんと優先順位をつけることができなかった。(初めてということもあり、保護者の考えを優先的に話し合い、支援を考えた。)
- 最優先課題に関しては、個別の指導計画とリンクして考えることができたらより有効ではないかと思った。
- 子どもの様子を広く知る上では仕方のないことかも知れないが、評価項目が多く、保護者が記述する量が多いように感じた。必要なところだけお願いしたが、結構な量を書いてもらった。
- これをもとに、変容したところを赤で書き加えていく等、次年度の支援にも繋げて行ければよいのではと思った。
- 家庭と学校での様子が異なることがよく分かり、学校での取り組みが家庭で少しでもできるように協力をお願いしていくことが大事なのだと改めて考えさせられた。
- 家庭と学校が子どものことを考えた時に、「何で困っているのか」「今はここまで」で「これからは～の方向で」と考える上の参考になるものである。日常の生活を振り返った時に、より支援者の視点が増え、良い。
- 保護者の視点リストを見て、なるほどと思ったのが、“得意なところ”の裏返しが“困っているところ”なのだと、記入を見て感じた。(例:声をかけると手を洗う←→声をかけないと手を洗わない)
- そういう点で、保護者のニーズ、子どものニーズに関しても深いものがあると捉えることができた。
- 1つの事柄を両面から捉えることの大切さを私自身も気付かされたように思います。
- 今回は肢体不自由の重複障害の子どもに対して試用したが、当時はまらない項目が多くあり、別の子どもを対象にした方が良かったかなと思った。しかし、よくよく考えてみると、これまでの支援を振り返ることができたし、これからどのようにしたらよいか考える手助けにもなったと思いました。
- 記入していただく方(保護者)の時期的な面できつかったような感じを受けた。
- 教師の立場からだと、いくらでも細かな項目について書いてもらうことが、即理解と支援に繋がることを実感できるが、記入する保護者の立場だと項目が多くてきつそうな感じがする。
- 細かく項目があり、1つ1つ子どもの様子を見直すきっかけになったと思う。家庭での得意なところ、苦手なところも分かり、よかったです。

【保護者】

- 最近、少しずつ子どもとの意思の伝達ができてきたような感じがします。これも少しはこの「視点リスト」のおかげかなと思いました。
- 家庭と学校でコミュニケーションを取り合い、これからも子どもの様子を知り合うことで、子どもを伸ばせると思う。「視点ツール」は良い方法だと思うので続けていきたい。
- 「視点ツール」を試用して、本当に良かったと思う。「視点リスト」を書くことで、子どものことを見つめ直してみました。支援することを考え、取り組むことで、家庭と学校が同じ目線に立つということは大切なことだと思います。もう少し長い期間取り組めたらもっとよかったですかも知れません。そして、途中でまた話し合ったりできれば、とも思いました。

また、学校での様子と家庭との様子に違いがあつたりもしたので、支援していく内容はよく考え、話し合わなければならぬと思いました。今後、実用化されることを希望します。

- ・（視点の）項目がたくさんあるので書き出すのが大変ですが、その後の支援策に役立つとても意義深い物だと思います。
- ・書くことができない項目（視点）が多すぎて…。数少ない書くことができたところでも、同じ答えになってしまったところがありました。
- ・実用的なこと、コミュニケーション、社会的なこと、その他の分類になっていて、記入しながら本人のできるところ、もっと頑張らせたいところがあり、日常側に居ながらあまりにも気にかけずに生活している部分があり、反省させられました。
- ・子供を視点リストを通して、改めてできること、苦手なことなど、親が認識することができたのではと思います。先生方にも子供を理解していただく上でも学校生活に役立てていただきたいと思っています。
- ・実際に取り組むには利用する側が視点を絞って選択して記入できる形、または各々に選択肢をつけて答えられる形にして、その他として記述できる部分を作ったらいいと思った。
- ・協力したいと思い取り組んだが、内容の多さに取り組む意欲がなくなった、というのが正直な感想です。もっと手軽に取り組める形のものの開発を強く望みます。この形だと労多くして…、という感じが強いです。まとめる先生自身大変だし、成果として何を上げていくか苦労したのではと思いました。
- ・記入例がとても詳しく細かく書いてあったので、最初は閉口してしまったが、書き進めていくうちに子どものことを様々な場面で考える機会があつて結果的には良かったと思う。

3) アンケート調査からの考察

前項の「視点ツール改訂版」に関するアンケート調査から、教師および保護者の視点に対する考え方や成果と課題、今後の「視点ツール改訂版」の更なる改訂版の開発課題を以下にあげた。

設問1の結果から

「ガイドブック」の内容は概ね理解できるものであることが分かった。しかし、教師と保護者では各評価項目の割合に差が見られることから、使用する人によってはICFの「相互作用モデル」の考え方に基づいた、子どもの生活状態の理解や必要な支援を図るという考え方方がイメージしにくい部分があることが考えられた。保護者にとってイメージしやすいように文章表現や図解をさらに工夫する必要があることが考えられた。

設問2の結果から

(1) の結果から、「視点リスト」は概ね記入しやすい形式であることが分かった。③の設問では、「得意なこと」と「苦手なこと」の両面から子どもの特徴を捉えることは、保護者の方が記入しやすいようであった。日常生活の子どもの様子は保護者の方が教師より多く見ており、理解している面も多いためと推測された。この点においても教師と保護者それぞれが把握した子どもの状態を共通理解することが重要であることが分かった。

「優先項目」の記入については教師と保護者で評価に差が見られた。特記事項にもあげたが、支援を

図りたいと考えていることについて、教師と保護者で相違する点が多いようである。この点は様々な文献で述べられているように、教育の専門家である教師が保護者の願いを踏まえながら支援の方向性を明確に示しつつ、子どもにとって最も必要と考えられる具体的な支援を、保護者と共に考えていくことが大切であると考えられる。

教師と保護者それぞれが記入した子どもの様子については相違点が多く見られるようである。特記事項にあるように、教師にとって今まで知らない、気づいていない子どもの様子を知ることができたことでその後の支援、指導の参考としたケースがあった。一方では両者（教師と保護者）の捉え方に違いが見られる部分を確認することが必要であると考えられた。

(2) の結果から、ほとんどの教師が子どもの様子について「知らなかった面があった」と評価しており、本ツールの有効性を確認することができた。②の結果では、「視点リスト」をもとにした支援の取り組み方については評価が二分した。この点は、この設問の項目(1)と同様のことが推測された。また、「視点ツール」が支援を明確にできるようなパッケージとなるようにさらに開発の工夫が必要であることが考えられた。

(3) の意見・要望では「保護者側からのニーズがリストを通して明確になり、支援する上でとても参考になった。」という意見が出され、本ツールの趣

旨と使用目的が評価された。一方では、記入することが類似する視点があった。視点例が多いことで焦点化しにくいことも考えられる。教師によっては両者（教師、保護者）がそれぞれ記入したもの一つの用紙にまとめ、個別面談で使用して、子どもの状態の相違点の確認や支援の取り組みを絞り込んだケースがあり、この課題点を解消していた。このケースを今後のツール開発の参考にしたい。

本ツールを通して子どもの特徴を細かく把握することができたことで、安心感を持ったという保護者の意見があった。また、「視点リスト」を使用することによって「子どもの見方や接し方が変わった」という意見が出された。この点は「視点ツール」の大きな成果であると考える。

課題点として、「視点リスト」が135の視点例から構成されているため、記入することへの負担感が両者ともにあった。できるだけ少ない負担でスムーズな使用ができることも、ツールの性能を高めるための一つの要素であるため、今後より利便性が高まるように開発する必要があると考えられた。

設問3の結果から

「評価シート」は概ね使用しやすいようであるが、“支援のアイディア”的記入が難しいことが伺えた。また、シート使用の有効性については評価が分かれた。個別面談において具体的な支援を明確にするために使用できるように、文献等を参考にしながらシートの改良を行いたい。

設問4の結果から

「視点リスト」の構成については全体的に見て概ね分かりやすい内容であるという評価であった。記入例を設けたことで視点の内容や記入のポイントが分かりやすかったという意見があった。“a5 職業に関する事”の項目では、分かりにくく回答した割合が両者（教師、保護者）とも多かった。意見にもあげられているが、この項目にある各視点は相互に関連し、重複する点があるため、子どもの状態の捉え方が難しいのではないかと推測された。また、“作業”という意識（表現）があまりない小学部では特に記入が難しいようである。

(2)の結果を受けて視点の追加を検討していく。

設問5から

「視点リスト」によって子どもの様子を細かく把握でき、そのことで教師と保護者の両者で共通理解する機会になったという意見が複数あげられた。生活の場面を細分化した視点リストがあることで子どもの特徴（得意なところ、困っているところ）を細かく把握できることが評価された。この点は本ツールの趣旨に沿ったものであり、有効性が認められたものと考えられた。

子どもの特徴を共通理解すること、“得意なところ”と“困っているところ”的両面から子どもを捉えることで子どもの見方や接し方がこれまでと変わり、子どもに対する支援の考え方より深まったことが意見から推測することができた。

課題点として最も多くあげられていることとして、記入の負担が大きい点がある。意見にもあげられているが、使用することで負担が大きくなれば、本ツールの趣旨を達成することができない。できるだけ容易に子どもの特徴について記入できるように「視点リスト」の形式などの検討を行い、教師、保護者ともに効果的に使用できるように利便性を追求していく。近年ではパーソナルコンピューターが普及しているため、記入したい視点や確認したい子どもの特徴のみ入力できる形や、両者が記入した子どもの状態を1つにまとめて見比べたり、記入した視点のみ閲覧できたりするといった、情報処理が容易にできるような、「視点ツール改訂版」の電子化も視野に入れて今後開発を検討したい。

アンケート結果を受けて全体的に感じることは、「視点ツール改訂版」の使用方法である。このツールを使用することで子どもの特徴（得意なところ、困っているところ）について子どもの支援者である教師と保護者がどのように理解し、どのように子どもの力を伸ばし、どのように支援を図るのかが実質的な使用のポイントであると考えられる。この「視点ツール改訂版」を支援に直接的につながる形成的評価の一つのツールとして使用してもらえるようにツールの改良に取り組んでいきたい。

3. 「視点ツール改訂版」の試用事例

本節では、「視点ツール改訂版」(以下「視点ツール」)を試用し、実態把握から具体的な支援の取り組みを実施した実践を紹介する。

1) 「視点ツール」の試用

今年度入学したA児(小学部1年、男子)を対象に試用した事例である。

「視点ツール」の試用実施計画は次の通りである。

7月下旬：「視点ツール」保護者へ配布

～8月下旬：「視点ツール」記入期間(教師、保護者それぞれで記入)(夏期休業中)

8月下旬：保護者「視点ツール」提出

9月：双方(教師、保護者)が記入した
「視点ツール」を教師が集約(共通点、相違点、支援の優先度の絞り込み)。

10月上旬：個別面談の実施。子どもの生活の状態と今後の支援の取り組みについて

の共通理解と確認。

10月上旬～：支援の取り組みの実施

(1) 子どもの生活の様子の把握

保護者から記入してもらった「視点ツール」を確認したところ、主に次のことを把握できた。全体的にはほとんどの視点例にA児の様子を記入されていた。ほとんどの視点を記入されていて、様々な場面でのA児の特徴(できるところ、苦手なところ)を細かく把握することができた。

筆者は、筆者と保護者が記入した内容を集約し、記入された内容の類似点や相違点、得意な(できる)ことや困っている(苦手な)ことを確認した。また、今後の支援を図りたい点を3つ程度に絞った。

双方で記入した「視点リスト」の内容を一つの表にまとめ、一覧表にして保護者に提示し、学校の様子についても保護者から確認してもらった。(図6)

(2) 子どもの様子と支援の取り組みの共通理解

10月中旬に実施した個別面談において、両者が記入した「視点リスト」をまとめた一覧表をもとに、

「視点リスト」記入一覧			氏名 ○○○○		記入月日	平成18年 8月	
項目	共通理解するための視点		家庭 生活の様子		記入者	学校 生活の様子	
	項目	コードNO.	視 点	備考項目 (○,○)		得意なところ、できるところ	得意なところ、できるところ
a1 基本的日常生活(身辺処理)							
a11 食べること	a111	食器の使い方					
	a112	食事の量や頻度					
	a113	好き嫌い					
	a114	食べ方					
	a115	食べる時の環境					
	a116	間食					
	a117	食事に関する特記事項					
a12 排泄	a121	排泄のコントロール					
	a122	排泄時の環境					
	a123	排尿のしきたり					
	a124	排便のしきたり					
	a125	生理の手当					
	a126	排泄後の手洗い					
	a127	排泄に関する特記事項					

図6 「視点リスト」から集約した子どもの様子をまとめる一覧表の様式の一例

A児の様子に関する情報交換を行った。この一覧表をもとに相違点などの気づいた点を話し合ったことで、学校ではまだ見て（気づいて）ないA児の特徴を知ることができた。

今後の支援に取り組む点としては、活動の切り替わる場面で自分から切り替えることが上手にできず困っているのではないかと考えられたため、できるだけスムーズに次の活動に主体的に取り組むことができるよう支援を図ることを共通理解した。

具体的な支援として、A児が一日の生活に見通しを持ちやすいように個別のスケジュールボードを用意することとした。家庭でも写真カードなどできるところから無理なく取り組んでいくことになった。そして、現在もこの支援に継続して取り組んでいる。また、A児の得意なところとして、流れが決まっていることなど、見通しを持っている学習活動に対しては、自分から意欲的に取り組むことができるため、主体的に取り組むができるようワークシステム等の学習環境の整備を図った。

2) 考 察

この事例では、入学して約4ヶ月経過した児童を対象にツールの試用を実施した。この時点では学校での一日の生活の様子をある程度把握できてきた時期ではあるが、細かい点でのA児の様子については把握の途中で、対応が後手に回ることもあった。本ツールによって得意なことや苦手なことといった普段話題に取り上げる機会があまりない面について把握できたことで、A児への配慮点を踏まえながらA児のペースに合わせて無理なく支援することができることが増えたと感じる。また、これまで課題として考えていたことを肯定的に捉えて積極的な活動に転換できた面もあった。例えば、水遊びが好きなことを課題面として捉えていたが、現在では食器洗いの係として活躍している。

本ツールに記入されたA児の様子を担当教師間で確認する機会もできた。

本ツールの試用から、気づいた点を個別面談で話題にしたことを見つけてA児の様々な様子やそれにまつわるエピソードを伺うこともできた。

このように生活状態のプロフィールを把握することでA児への関わり方や配慮点等に対する意識を高くすることができたと感じている。子どもの一番の専門家である保護者との共通理解の大切さを改めて感じることができた。

留意する点としては、事前に「視点ツール」を確認して話題に取り上げたい子どもの様子（視点）、具体的な支援の取り組みの案を整理しておき、話し合いを円滑に進めることができるよう準備しておく必要があると考えられた。

第4章 まとめと今後の課題

一人一人の子どもの教育的ニーズを把握し、支援の方向性を明確にするには、子どもに関わる教師と保護者が共通の視点で子どもの様々な状態を多面的に捉え、適切な支援を図ることが重要な要素の一つである。

本研究では、子どもの生活状態の把握と支援の取り組みを共通理解するために開発した「視点ツール改訂版」の試用を通して、その使いやすさや有効性の評価を行った。ここでは、「視点ツール改訂版」の評価および今後の開発課題についてまとめる。

1. 「視点ツール改訂版」の評価

1) 所属校教師との試用評価に関するミーティング

子どもの特徴を「視点リスト」に記入したことで子どもの状態の把握が的確になり、その後の子どもの生活状態の変化、成長についても的確に把握できる可能性が示唆された。課題点として、記入の負担感がある、優先して支援を図りたい視点の絞り込みが難しい、個別の指導計画への活用の仕方、記入者の考え方で記入する内容が変化する場合がある、といった点があげられた。

2) アンケート調査による評価のまとめ

①「ガイドブック」について

内容は概ね理解できるという評価であった。しかし、“得意なこと”と“苦手なこと”的面から子どもの特徴を捉えることについては、教師と保護者

では評価内容に差が見られ、保護者に比べて教師の方が評価が低い傾向が見られた。上田（2005）⁸⁾は、「基底還元論（個人の問題を解決するには「心身機能・構造」を改善する以外に方法はない）という誤った考え方」を指摘している。古い障害観〔個人の障害（マイナス）のみに視点を当て、社会に適応できるように個人の心身の機能を改善、克服するという考え方〕が克服され、子どもを“得意なこと”と“苦手なこと”的面から適切に把握してより良い支援をすることが今後は重視される。このことを考えると、子どもを両面から把握して記入することが教師にとって容易になるような方策が必要と思われた。

新しい障害観に基づいて提案された ICF の考え方（障害のある個人を様々な要因との相互作用によって理解し、必要な支援を考えること）を丁寧に説明する機会が必要であること等が考えられる。新しい障害観や ICF（相互作用モデル）による個人の評価の考え方を踏まえながら、本ツールの趣旨を説明することを検討していきたい。

②「視点リスト」について

各視点は概ね記入しやすい内容であることが分かった。

子どもの状態を両面（“得意なところ、できるところ” “困っているところ、苦手にしているところ”）から捉えることで子どもの見方や支援の考え方方が変わった、良かったという意見が複数あった。このことから、両面から子どもを捉えることは重要であることが確認された。AAMR 第 10 版（2004）⁹⁾では、個人を取り巻く様々な要因を、「長所（力のある部分）」と「制約を受けている部分」の両面から捉え、個人のニーズの焦点化と状態の評価を行っている。子どもの状態を両面から把握することは、子どもを支援する教師と保護者にとって大事な見方であると考えられ、本ツールの重要な要素であるこの部分の有効性が確認されたものと考える。

記入された視点の両面または“優先項目”的内容が教師と保護者で相違する点が多いことが確認された。このことから、両者の子どもの捉え方を相互に明確に知った上で共通理解することが大切であるこ

とが伺えた。

保護者が記入した子どもの特徴について、ほとんどの教師が「知らなかった面があった」と評価していることから、教師が保護者の把握している子どもの特徴をよく知るためにも本ツールが有効であると思われた。

「視点リスト」の構成は、記入例を設けたことは、視点の内容や記入のポイントが分かりやすく記入しやすいことにつながったものと考えられた。一方で、相互に関連、重複する視点項目があったことは、記入者に戸惑いを感じさせた面があったと思われ、今後検討する必要があると考えられた。

「視点リスト」を使用することで子どもの様子を細かく把握でき、教師と保護者間で共通理解する機会になったという意見が複数あげられ、本ツールの有効性が評価された。このことから、様々な障害種の子どもに対しても使用できる可能性のあることが考えられる。

③「評価シート」について

概ね使用しやすいという評価だったが、“支援のアイディア”欄の記入が難しいようである。また、シート使用の有効性については評価が分かれた。

2. 今後の開発課題

「視点ツール改訂版」の試用評価から以下のことを今後の開発課題としてあげる。

① 基本的な考え方の説明

ICF の「相互作用モデル」の考え方を基にして、子どもの生活状態の理解や必要な支援を図ることを目的として開発した「視点ツール改訂版」の趣旨がイメージしやすいように文章や図解等の工夫を検討する。また、巻末に新しい障害観やキーワードとなる用語の説明を用意することも検討する。

②「視点リスト」の開発課題

視点例が多いため（135 の視点例）、記入することへの負担感が両者ともにあった。負担が増すことで、本ツールの使用に対する意欲の低下につながることが懸念されるため、できるだけ簡単に子どもの特徴について記入できるようにフォーマットの検討を行いたい。具体的には、子どもの特徴で気付いた

点を確認できるように、視点のチェックリストを作成する等によって、段階的に子どもの特徴や支援課題を絞り込むことができるようなフォーマットを検討したい。

また、教師、保護者ともに効果的に本ツールを使用できるように利便性を追求していきたい。近年ではパーソナルコンピューターが普及しているため、記入したい視点や確認したい子どもの特徴、あるいは記入によってまとめられた子どもの特徴を容易に把握できるように、「視点ツール改訂版」の電子化も視野に入れて今後開発を検討したい。なおその際は、個人情報保護の観点を十分に踏まえて開発する必要がある。

③「評価シート」の開発課題

具体的な支援を明確にするためのシートの内容を検討する。個別面談等の話し合いと記録から、支援のヒントが見えてくるようなフォーマットを文献等を参考にしながら検討する。

3. 今後の使用に向けて

これまでのまとめにより、本ツールの使い方によって効果が違ってくることが考えられた。本ツールが目指していることは、子どもの生活状態を単に把握するためだけではない。学校や家庭における子どもの生活状態を“得意なところ”“困っているところ”的両面から把握し、両者（教師と保護者）の子どもの捉え方の違いについては確認し合いながら、子どものために必要な支援を考えることである。

このツールの使用を通して保護者の願いを汲み取りながら、共通の意識、共通の取り組み（協働）によって支援の方向性を明確にできることを目指し、今後もツールの試用と開発に取り組んでいきたい。

謝 辞

本研究をまとめるにあたり、研究協力いただきました山形県立鶴岡養護学校の研究グループの教師ならびに保護者の皆様に心から感謝いたします。

最後に、本研究ならびに本論文をまとめるにあたり、独立行政法人国立特殊教育総合研究所 濁美義賢先生からお力添えをいただきましたことを心から感謝し、お礼申し上げます。

お願い

本研究報告について、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。

引用・参考文献

- 1) 中央教育審議会：特別支援教育を推進するための制度の在り方について(答申). 中央教育審議会, 2005
- 2) 独立行政法人国立特殊教育総合研究所編著：自閉症教育実践ガイドブックー今の充実と明日への展望ー. ジアース教育新社, 2004.
- 3) 独立行政法人国立特殊教育総合研究所編著：ICF（国際生活機能分類）活用の試みー障害のある子どもの支援を中心にー. ジアース教育新社, 2005
- 4) ローナ・ウイング. 久保紘章, 佐々木正美, 清水康夫監訳：自閉症スペクトラー親と専門家のためのガイドブックー. 東京書籍, 2004
- 5) 内閣府：障害者基本計画, 2-4, 19-21. 2002
- 6) 佐々木正美：自閉症療育ハンドブック. 学習研究社, 1993
- 7) 栗田広, 渡辺勲持共訳：知的障害 定義、分類および支援体系. 財団法人 日本知的障害福祉連盟, 1-15, 2004
- 8) 上田敏著：ICF の理解と活用. きょうされん, 40-41, 2006
- 9) 障害者福祉研究会編：ICF 国際生活機能分類ー国際障害分類改訂版ー. 中央法規出版, 2002
- 10) 全日本特別支援教育研究連盟編：特別支援教育研究 587(7), 2-5, 18-21. 日本文化科学社, 2006

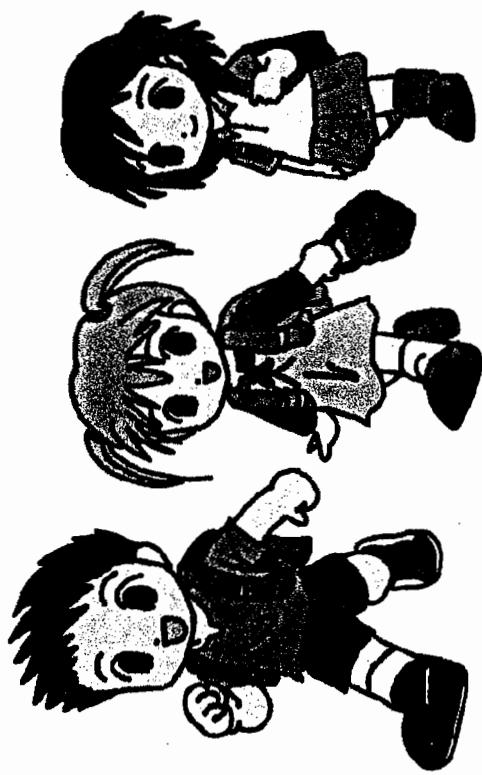
資 料

資料1 「視点ツール改訂版」 ······ 24
「視点リストガイドブック改訂版」
「視点リスト改訂版」
「評価シート」

資料2 アンケート調査用紙 ······ 49

子どものための

「規範」「アート」 ガイドブック



はじめに

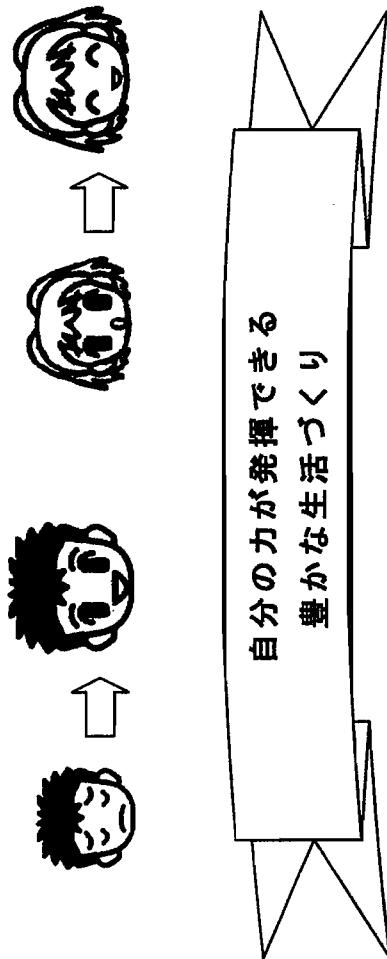
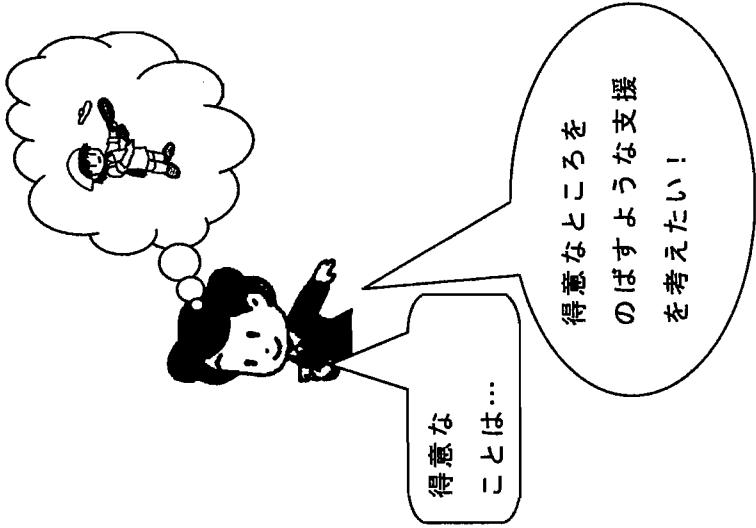
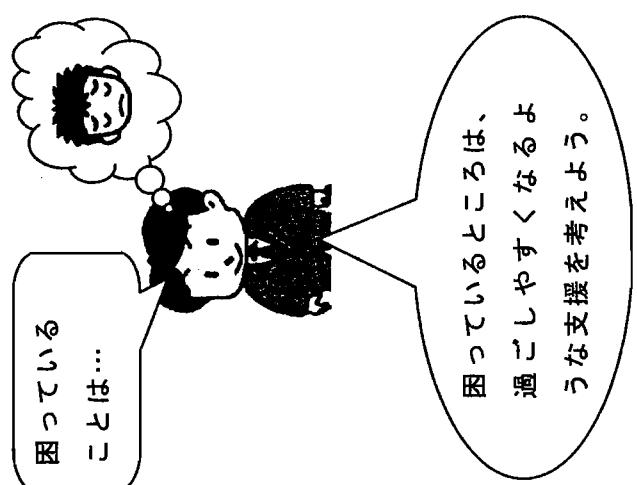
子どもにとって過ごしやすい生活を考えるには、子どもがどのように生活しているのかを理解すること、そこから分かった得意なことや生活する上で困難と考えられることを明確にすることが必要です。

そして、子どもが持っている良い面を伸ばすことや、生活上の困難な面を改善するための方法を保護者と教師が相互に理解することが大切です。

子どもの見方や関わり方、育て方、支援の考え方は、人によって様々です。そのため、子どもにあった生活を考えるには、子どもの様子をできるだけ正確に把握できるように様々な面から子どもたちの様子を捉えることが大切といわれています。

子どもに関わる保護者と教師が、子どもの様子を同じ目線で見つめ、同じ歩調でより豊かな生活を作るための生活づくりを一緒に考えることを目的として、「視点リスト」を作りました。

このリストは、生活のいろいろな状況の中で子どもがどのように過ごしているのか、どのような支援があれば、子どもが持っている力を今以上に発揮でき、過ごしやすい生活になるのかを考えるために一つの資料です。



子どもの生活の「視点リスト」について

ステップ2

「視点リスト」は、子どもの生活の様子を保護者と教師が共通の視点で捉えるように、日常の生活を様々な視点としてリストアップしたもの。

「視点リスト」にある様々な視点を見て、子どもの生活の様子について特徴のあることを記入します。

記入します。

【記入の仕方】

ステップ2

「視点リスト」を見て、子どもの生活の様子で“特徴のあること”や“重点的に支援を考えたいこと”に絞って記入します。

※「視点リスト」を一通り見て、気づいたこと、書くことができそうな視点をある程度チェックすると記入しやすいと思います。

〈例えば…〉

『b201 文字を読むこと』の視点の場合…

- “得意なところ、できるところ”は、「ひらがなの本を読むことができます」です。

- “困っているところ、苦手にしているところ”は、「周りを気にして読めない時がある」「読めない文字があると困つて泣いてしまうことがあります」です。

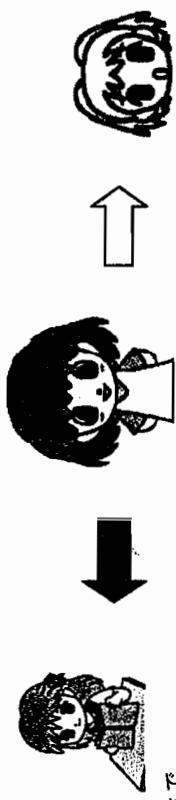
リストにある視点の全てを記入する必要はありません。書ける範囲で記入してください。

1つのことを両面から捉えてください。



話しかけはここで、好きな遊びはこんなことで…。

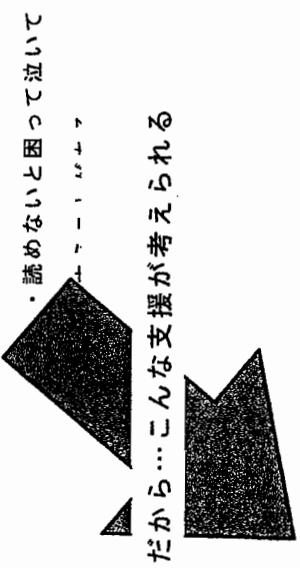
b201 文字を読むこと



本が好きで、
ひらがなの本を読む
ことができる

・周りを気にして読めない
時

がある



・周りが気にならないように
ついたてを用意する。

・楽しく過ごせるように、読み
や

優先的に支援を考えたい視点を絞ります。
優先項目の欄には次のような形で記入します。

◎…第1優先：重点的に支援を考えたい視点（すぐにでも支援を考えたい点）

○…第2優先：近いうちに支援を考えたい点

- ・記入した視点の全てを○、○に分類する必要はありません。
- ・より良い支援が図れるよう、第1優先、第2優先したい視点を絞ってください。

※優先順位については、学校と家庭で話し合って決めていきたいと考えています。

※記入しない視点の欄は、斜線／を引いてください。

書けるところから取り組んでみてください。



安心できる、過ごしやすい生活づくり



「アセスメントツール」使用の流れ

学校（担任）

家庭（保護者）

- ① 学校と家庭の双方でツールを使用して、子どもの生活の様子について記入します。

・「視点リスト」を参照して、子どもの特徴のあること（得意なところ、困っているところ）、気づいたことを簡単に記入します。

- ② アセスメントツールを学校に提出します。

- ③ 提出していただいたツールを担任が確認します。

- ・記入していただいた子どもの様子について確認します。
- ・学校と家庭の双方で書いたことを確認します。
- ・具体的な支援の取り組みについて検討します。

- ④ 面談を行い、担任と保護者で子どもの様子と支援の方法について共通理解を図ります。

- ・子どもの様子と支援の取り組み方について共通理解を図ります。
- ・学校と家庭で可できる範囲で同じような支援に取り組みます。



注) 「アセスメントツール」とは「視点ツール」のことを意味する。



児童生徒名 () 記入者 ()

学年 ()

学部 ()

児童生徒名 () 記入者 ()

「観点リスト」記入例

領域	項目	コードNO.	視点	共通理解するための視点			優先項目 (◎、○)	得意などころ、できるところ 困っているところ、苦手にしているところ	生活の様子
				視点の内容					
a 基本的日常生活（専用処理）	a11 食べること	a111 食器の使い方	使用する食器の種類（スプーン、フォーク、はし、補助皿など）、使い方（食器の握り方、持ち方）など	・にぎり箸で食べることができる。 ・補助スプーン、補助皿を使って食べることができる。	・つまんで食べることが難しい。 ・腰が前に出て姿勢がくずれて食べにくくなる。				
実用的なこと	a112 食事の量や傾向	過食、少食、適量など	・なんでも残さず食べている。 ・食事の量は少なく、お腹がいっぱいになると姿勢をすらして伝えて伝える。	・あるだけの物を食べるで、食べ過ぎてしまう。 ・お腹がいっぱいになると食器をのけたり、椅子から落ちてしまいやすくなる。	・腰が前に出て姿勢がくずれて食べにくくなる。				
	a113 好き嫌い	好きな食べ物苦手な食べ物	・白いご飯と果物が好き。	・お腹など食べる物がないと全然食べない。	・食べたくない物を手でつまんで床に落とすことがある。				
	a114 食べ方	噛み方、飲み方、特徴のあること	・粗茶淡々と食事ではなくどんどん食べるのが好き。	・柔らかい物を噛んで食べることができる。	・せんべいなどの硬い物や噛みにくい物は噛みたくないで、食べない。				
	a115 食べる時の環境	場所、座りかた（姿勢）、座る位置など	・早く食べることができる。	・椅子に座って食べることができる。	・あまり噛まないで食べてしまう。				
	a116 間食	間食の有無、間食をする時間、食べる物の種類など	・周りがあまり気にならないように、テーブルの端で食べている。 ・お腹がすぐと好き嫌いなくなんでも食べる。	・腰がくすぐれてしまいやすい。	・近くの人を気にすると同じように食べるので、だんだん落ち着きがなくなりてしまふ。				
	a117 食事に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・間食をしないで過ごすことができる。 ・「知らない時は『知らない』と書いて伝えることができる。	・おやつの時間があると、何もできないので辛いようだ。	・我慢ができないとなると、大きな声で泣いてしまうことがある。				
a 排泄	a121 排泄のコントロール	自分でトイレに行く、定時での声かけ、訴え方など	・声をかけるとトイレに行くことができる。	・声をかけないといつまでもトイレに行かない。	・トイレに連れて行くと我慢してしまう。				
	a122 排泄時の環境	使用する便器の種類、場所に応じる様子（特定の場所や他の場所での様子など）、補助用具、好みないこと、排泄のあること	・もよおすと、部屋の隅に行ってオムツにすることができる。 ・様式トイレに座っておしつこい、うんちをすることができる。	・トイレにしか行かない。	・決まったトイレにしか行かない。				
	a123 排尿のしかた	姿勢、衣服の状態（ズボンやチャックの下ろし方）、自立の程度（自分でできること）、特徴のあること	・人がいない所に行っておしつこい、うんちをすることができる。	・トイレはとても嫌がって下ろしてよく見ないのでおじっこするので、汚すことがある。	・ズボンを履まで下ろしておじっこするので、汚すことがある。				
	a124 排便のしかた	姿勢、衣服の状態（ズボンなどの下ろし方）、特徴のあること	・男子用便器の前に立っておしつこいをすると股を触って聲にしている。	・おしつこいをしておしつこいをすることがある。	・おしゃをしたことに気づきいで汚してしまうことがある。				
		オムツ（自分でできること）、特徴のあること	・バットにして、おしつこいをすると股を触っている。	・おしゃを拭かないでの汚してしまうことがある。	・トイレでうんちの跡跡がまだない。				
	a125 生理の手当	用品の理解、使い方、自立の程度など	・オムツにうんちをして、おしゃをたいたい教えてくれる。	・交換が必要な時は気づいてもじもじして教えてくれる。	・自分で交換した経験が未だない。				
	a126 排泄後の手洗い	手洗いの有無、様子など	・腰をかけると手を洗うことができる。	・交換したい時は、大人に近づいて腕を引つ張って伝えてくれる。	・気づいてもらえない時や伝えたい人がいない時は、迷惑してしまうことがある。				
	a127 排泄に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・いつも手をていねいに洗う。	・ある程度我慢しておむつにするので回数が少ない。	・水をたくさん出して水で遊んで遊んでもしまうことがある。				
			1回のおしつこの量が多くなって、あふれてしまいやすい。						

「観点リスト」記入用紙

領域	項目	コードNO.	視点	共通理解するための観点		優先項目 (◎、○)	得意などころ、できるところ	困っているところ、苦手にしているところ	生活の様子
				実用的なこと	基本的生活(身辺整理)				
a	a1 基本的日常生活 (身辺整理)	a11	a111 食器の使い方						
	食べるること	a112 食事の量や傾向							
		a113 好き嫌い							
		a114 食べ方							
		a115 食べる時の環境							
		a116 間食							
		a117 食事に関する特記事項							
	a12 排泄	a121 排泄のコントロール							
		a122 排泄時の環境							
		a123 排尿のしかた							
		a124 排便のしかた							
		a125 生理の手当							
		a126 排泄後の手洗い							
		a127 排泄に関する特記事項							

a 実用的なこと	a13 清潔	a131 手を洗うこと	洗い方、水に対する反応など、特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> 手を洗うことが好きで、ていねいに洗う。 指先を優しく洗うことができる。 うがいができる。 口をやすぐことができること。 	<ul style="list-style-type: none"> いつまでも手を洗って、水遊びをしてしまう。 石けんが嫌で、手全体を洗いたがらない。 うがいした水を飲み込んでしまう。 いつまでも口の中の水を出さないで、遊んでしまう。
	a132 うがいをすること	うがいのしかた、口のゆすぎ方、特徴のあること		<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きのしかた、磨いてもらう時の様子、特徴のあること 	<ul style="list-style-type: none"> ・石けんが嫌で、手全体を洗いたがらない。
	a133 歯を磨くこと	歯磨きのしかた、磨いてもらう時の様子、特徴のあること		<ul style="list-style-type: none"> ・歯磨きを優しく洗うことができる。 ・少し口を開けて、前歯だけ磨かせてくれる。 ・一人でだいたい歯を洗うことができる。 ・濡れタオルで歯を拭かせてくれる。 ・自分で爪を切ることができること。 ・手の爪を切らせてくれる。 ・お腹を自分で洗うことができる。 ・手の届くところは自分で洗うことができる。 ・鼻水がと氣づいてふくことができる。 ・水に手を付けて洗うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕上げ磨きが苦手で、口を開けない。 ・歯磨きを優しくしてもらうことが苦手。 ・服を濡らしてしまいやすい。 ・足の爪は怖がって、なかなか切らせてくれない。 ・頭を洗うことなどがとても苦手。 ・手の届かないところは、くすぐったがって洗わせてくれない。 ・鼻水を服ぬぐいやすい。 ・レバ式の蛇口がないと、開けることが難しくてなかなか洗えない。
	a134 顔を洗うこと	顔を水で濡らすこと、特徴のあること		<ul style="list-style-type: none"> ・お腹を自分で洗うことができる。 ・手の届くところは自分で洗うことができる。 ・鼻水がと氣づいてふくことができる。 ・水に手を付けて洗うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後を気にしないで着てしまいやさい。 ・服や体にびつたりした服を着ることが苦手で、脱ぎたがる。 ・上着を一人で脱ぐことは難しい。 ・引張って脱いで、嫌な脱ぎ方になる。
	a135 爪をきること	きてもらいう時の様子、自分でできることなど		<ul style="list-style-type: none"> ・お腹を自分で洗うことができる。 ・手の届くところは自分で洗うことができる。 ・鼻水がと氣づいてふくことができる。 ・水に手を付けて洗うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後を気にしないで着てしまいやさい。 ・服や体にびつたりした服を着ることが苦手で、脱ぎたがる。 ・上着を一人で脱ぐことは難しい。 ・引張って脱いで、嫌な脱ぎ方になる。
	a136 体を洗うこと	体の洗い方、洗つてもう時の様子、特徴のあること		<ul style="list-style-type: none"> ・お腹を自分で洗うことができる。 ・手の届くところは自分で洗うことができる。 ・鼻水がと氣づいてふくことができる。 ・水に手を付けて洗うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後を気にしないで着てしまいやさい。 ・服や体にびつたりした服を着ることが苦手で、脱ぎたがる。 ・上着を一人で脱ぐことは難しい。 ・引張って脱いで、嫌な脱ぎ方になる。
	清潔に腐する特記事項	上記の他に特徴のあること		<ul style="list-style-type: none"> ・お腹を自分で洗うことができる。 ・手の届くところは自分で洗うことができる。 ・鼻水がと氣づいてふくことができる。 ・水に手を付けて洗うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後を気にしないで着てしまいやさい。 ・服や体にびつたりした服を着ることが苦手で、脱ぎたがる。 ・上着を一人で脱ぐことは難しい。 ・引張って脱いで、嫌な脱ぎ方になる。
	a14 衣服の着脱	a141 衣類を着ること	衣類の種類、衣類の種類や状態（前後、表裏など）の理解、自分でできること、好みない衣類、特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・ズボンはいたい一人ではなくくことができる。 ・Tシャツや肌着を着ることができます。 ・ズボンを一人で脱ぐことができる。 ・一人で脱ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前後を気にしないで着てしまいやさい。 ・服や体にびつたりした服を着ることが苦手で、脱ぎたがる。 ・上着を一人で脱ぐことは難しい。 ・引張って脱いで、嫌な脱ぎ方になる。
	a142 衣類を脱ぐこと	衣類を脱ぐこと	脱ぎ方、自分でできること、特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・一人でファスナーを下ろすことができる。 ・一人でズボンを一人でははずすことができる。 ・一人で脱ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ファスナーがつまみにくくて、閉めることが難しい。 ・ホックを付けることが難しい。 ・引張っている時に姿勢が後ろに崩れてしまう。柔らかい服は足が入りにくい。 ・靴を見ないではきやすいので、左右逆に履いてしまいます。 ・脱いた靴を何気なく投げてしまいやさい。 ・周りが気になると姿勢が崩れてしまうことが多い。 ・どこでも服を脱いでしまうことがある。
	a143 ボタンやフスナーの着脱	自分でできること、特徴のあること	自分でできること、特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・ホックを一人ではずすことができる。 ・座って、かかとのひもを引いて靴をはくことができる。 ・足を使ってはくことができる。 ・座って靴を脱ぐことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引張っている時に姿勢が後ろに崩れてしまう。柔らかい服は足が入りにくい。 ・靴を見ないではきやすいので、左右逆に履いてしまいます。 ・脱いた靴を何気なく投げてしまいやさい。 ・周りが気になると姿勢が崩れてしまうことが多い。 ・どこでも服を脱いでしまうことがある。
	a144 履き物を脱ぐこと	履き方、姿勢、履き物（左右）の状態の理解、自分でできること、好みない履き物、特徴のあること		<ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱がせてもう片は、椅子に座ることができる。 ・靴を脱ぐことができる。 ・着い時は自分で服を脱ぐ。 ・着い時は、服をタンスから出して重ね着することができる。 ・自分の部屋で着替えている。 ・部屋の隅に行って着替えている。 ・服が濡れると気づいて、自分で着替えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着い時は自分で服を脱ぐ。 ・着い時は、服をタンスから出して重ね着することができる。 ・自分の部屋で着替えている。 ・部屋の隅に行って着替えている。 ・服が濡れると気づいて、自分で着替えることができる。
	a145 履き物を脱ぐこと	脱ぎ方、姿勢、自分でできること、特徴のあること		<ul style="list-style-type: none"> ・靴を脱がせてもう片は、椅子に座ることができる。 ・靴を脱ぐことができる。 ・着い時は自分で服を脱ぐ。 ・着い時は、服をタンスから出して重ね着することができる。 ・自分の部屋で着替えている。 ・部屋の隅に行って着替えている。 ・服が濡れると気づいて、自分で着替えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・着い時は自分で服を脱ぐ。 ・着い時は、服をタンスから出して重ね着することができる。 ・自分の部屋で着替えている。 ・部屋の隅に行って着替えている。 ・服が濡れると気づいて、自分で着替えることができる。
	a146 衣服の調節	気候や季節に応じた衣服の着脱、からだの状態（暑い、寒い）に応じた衣服の着脱のしかたなど		<ul style="list-style-type: none"> ・着替える場所に対しての様子、着替えやすい環境、着替えにくらい環境など 	<ul style="list-style-type: none"> ・周囲が気にならないと着替えていたがらない。 ・迷った場所でないと着替えていたがらない。 ・濡れていることが気になつていると、我慢できずにすぐに着替えるようとする。
	a147 着替えをする場所	上記の他に特徴のあること			
	a148 衣服の着脱に関する特記事項				

a	a13	a131	手を洗うこと					
	清潔	a132	うがいすること					
		a133	歯を磨くこと					
		a134	顔を洗うこと					
		a135	爪をきること					
		a136	体を洗うこと					
		a137	清潔に関する特記事項					
a14	衣服の着脱	a141	衣類を着ること					
		a142	衣類を脱ぐこと					
		a143	ボタンやファスナーの着脱					
		a144	履き物を履くこと					
		a145	履き物を脱ぐこと					
		a146	衣服の調節					
		a147	着替えをする場所					
		a148	衣服の着脱に関する特記事項					

a e2. 家庭的生活		a e2. 家庭的生活	
a21 一般的家事	a211 捩除をすること	経験のあることと、用具を使うこと、得意な掃除、特徴のあること	・ゴミがあると掃除機を使って掃除をすることができる。 ・窓をかけると、私の汚れている所をぞうきんではなくことができる。
	a212 洗濯をすること	経験のあることと、洗濯機をつかうこと、干すこと、特徴のあること	・窓の方はあまり気にしないで拭く。 ・洗濯物を干しにかけることができる。
	a213 食事の準備をすること	経験のあること（食器の準備や盛りつけなど）、家庭での役割など	・洗濯物があると、自分で洗濯機を使って洗うことができる。 ・ご飯やみそ汁を茶碗に盛ることができる。
	a214 食事の片付け	経験のあること（食器の片付け、食器洗いなど）、家庭での役割など	・食事時間になると、自分のはしとコップを用意することができる。 ・食器のすすぎをすることができる。
	a215 調理をすること	経験のあること、簡単な調理（カッफラーメン作りなど）の経験の有無、得意なこと、自分でできるることと、特徴のあること	・お腹がすくと、カッफラーメンにお湯を入れて作ることができる。 ・パンをトースターで焼いて食べることができる。
	a216 噛好品など	好きな飲み物（お茶やコーヒー、ジュース、炭酸飲料など）、苦手な物など	・喉が渴くとスポーツドリンクをよく飲む。 ・アイスクリームが好き。
	a217 火を扱うこと	調理などでの火の扱いの経験の有無、できることなど	・コンロを使う時は、コンロの火をつけることができる。 ・ライターの火をつけることができる。
	a218 その他の手伝い	家庭での役割、得意なこと、特徴のあること	・ゴミ箱のゴミがいっぱいの時にゴミを捨てる。 ・新聞を持ってくる手伝いをしている。
a22 身だしなみ	a221 身なりを整えること	髪や服装、汚れなどに気づくことや直すこと、自分でできること、特徴のあること	・シャツが出ていると、気づいて前を入れることができると、髪を見ると、髪をすぐ直すことができる。 ・5分くらいなら我慢して切らさせてくれる。
	a222 床屋、美容院の利用	経験の有無、場所に対する特徴（匂い、費用気質等）、整髪時の様子（髪を切ること、触れられることがあります）	・汗や鼻水が出ると気づいてハンカチで拭くことができる。 ・服が汚れると、すぐに着替えることができる。
	a223 身だしなみに関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・汗や鼻水が出ると、何度も拭いて肌が赤くなってしまうことがある。 ・その場で着替えたくなってしまう。
a23 整理整頓	a231 物を整理すること	片付けの時の様子、片付け方、特徴のあること	・物をかけると、片付けることができる。 ・物をもとの場所にきちんと片付けることができる。
	a232 衣服の手入れをすること	たたむこと、しまうこと、特徴のあること	・服をかごにしまうことができる。 ・脱いた服は自分なりにたたむことができる。
	a233 整理整頓に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・同じ物同士を揃えて片付けることができる。

a2 家庭的活動	a21	a211 捕除をすること	
一般的な家事	a212	洗濯をすること	
	a213	食事の準備をするこ	
	a214	食事の片付け	
	a215	調理をすること	
	a216	嗜好品など	
	a217	火を扱うこと	
	a218	その他のお手伝い	
身だしなみ	a221	身なりを整えること	
	a222	床屋、美容院の利用	
	a223	身だしなみに 関する特記事項	
整理整頓	a231	物を整理すること	
	a232	衣服の手入れをすること	
	a233	整理整頓に 関する特記事項	

a3 社会的生活	a31 健康・医療	a311 痛みや不調がある時に自分で気づくこと（腹痛や頭痛、歯痛、皮膚の痛みや気分が悪いなど）、訴え方、安静時の様子、特徴のあること	「いたい」と言って、痛いところを手で押さえて伝えることができる。 ・どこに痛い時は、うずくまることが多い。	・あまり無い時とたいたいたり手で無理に押したりすることがある。 ・無いところを伝えることが難しいので、分からないと泣いて苦しんでしまう。
	a312 休息すること	疲れたり時（休みたいことを伝える、無理をしてしまったり）など	自分で横になつてゴロゴロする。 ・疲れている様な時に休んでいいことを伝えてみんなと一緒に休みながら寝る。	・自分が横には伝えることがあまりないので、体みたいことに泣いて泣いて泣く。 ・無理をしてしまうと気持ちは不安定になつて泣いてしまうことがある。
	a313 服薬すること	服薬のしかた（飲み方、配慮すること）、苦手な薬、抵抗感のある様子、注意すること、特徴のあること	・食べ物と混ぜると、飲むことができる。 ・好きな物があると落ち着いて待つことができる。	・薬に気づくとすぐ口から出して、飲まなくなってしまう。 ・あまり長い時間（だいたい20分以上）を持つことは苦手。
	a314 病院・歯科医院を利用すること	場所に対しての様子（匂い、雰囲気等）、待っている時の様子、その他配慮すること、特徴のあること	・病院へ行くことを伝えると、我慢して行くことができる。	・消毒の匂いが苦手で、きついと鼻を押さえて落ち着かなくなってしまう。
	a315 医師などと接する時の様子	医師などと接する時の様子、診察の時の様子（口を開けること、聽診器を当てるること、注射をすることなど）、白衣等の身につけているものへの反応など、	・少しの時間なら椅子に座ることができる。 ・聽診器に慣れてきて、落ち着いて受診できる。	・診察器を当てるなどの触られることが苦手で座を立とうとしてしまう。 ・注射が苦手で見ただけ怖がって混乱してしまう。
	a316 駐車・医療に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・受診の時は落ち着いて受けけることができる。 ・人が受診している様子を見ると、安心して受診することができる。	・泣き声が聞こえると、怖がっててしまう。 ・泣き声があると急に走り出してしまう。
a32 移動・交通機関の利用	a321 屋外での移動	移動の時の様子（手をつないで歩く、一人で歩く、自転車で移動するなど）、注意すること、特徴的なこと	・手をつないで道筋を歩くことができる。 ・自転車に乗ることができる。	・公園遊びたい時は自分で自転車に乗つてしまふので、車が走る。
	a322 交通機関の利用	経験のある乗り物（バス、列車、飛行機、船等）、慣れてい見る乗り物、苦手な乗り物など	・親と一緒に路線バスで学校まで乗つくることができる。 ・バスは前席が好きで自分で座る。	・慣れていても一人で乗るのを不安に思つて、乗つたがらない。 ・後部の席は狭くて、酔つてしまう。
	a323 乗車時の様子	座り方や座る位置、配慮が必要なこと、スピードや振動への反応、クラクションへの反応など	・前の席が好きで、外を覗なが楽しく乗ることができる。 ・次の停車場のアナウンスをよく聞いている。	・好きな座以外は座ったがらないことが多い。 ・アナウンスの音楽を何度も繰り返し書いてしまうことがある。
	a324 交通ルール	道路の歩き方、歩道と車道の区別、横断のしお、信号機の理解など	・押しボタン式の信号機を使って横断することができる。 ・青信号を嫌がめて道路を渡ることができる。	・何度もボタンを押るので、左右を確認しないで危ない時がある。 ・車をあまり気にしないで、道路を横切つて行きたいところに行くことがある。
	a325 移動・交通機関の利用に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・切符の自動販売機の使い方を知っている。	・見かけると近づいて遊んでしまうことがある。 ・何に乗るか分からないと不安になる。
a33 買い物	a331 お金を扱うこと	お金を使うこと（理解していることなど）、区分や理解をしている金額など	・10円、100円、500円のお金を知つて同じ種類ごとまとめることができます。 ・金額に合ったお金を並べることにこだわっています。	・千円札は使つたことがない。 ・お金の向きが揃っていないと、違う今まで並べることにこだわっています。
	a332 買い物をすること	経験のある買い物、買いたい物をする時の様子（やりとり、手順で理解していることなど）、好きなお店、好きな品物、特徴のあること	・買いたい物をレジに持つて、一緒に買うことができる。	・お金の受け渡しはまだ分からないので、大人がしている。
	a333 自動販売機の利用	経験の有無、利用の仕方の理解など	・100円ショップが好きで、買いたい物をかごに入れれることができる。 ・20円を入れて買うことができる。	・好きな物はなんでもかごに入れてしまう。
	a334 お金のやりとり	お金を出すこと（金額に応じたお金を出すこと）、おつりをもらうことなど	・お金を入れて買うことを知っている。	・お釣りがある時にもらうのを忘れてしまうことがある。
	a335 買い物に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・買った物の金額に合わせてお金を払うことができる。 ・お金を出して買うことができる。	・たくさんのお金を出してしまうことがある。
a34 電話の使用	a341 電話を使うこと	電話の使用の経験（固定電話、携帯電話）、電話の使い方で理解していること、特徴のあること	・簡単な物は近所のお店に一人で買に行くことができる。	・なかなか決められず時間がかかることがある。
	a342 電話の使用に関する特記事項	上記以外のことについて	・電話がかかつてくると、出て受け応えをすることができる。 ・取扱など知つている所に電話をかけることができる。 ・携帯電話に興味を持つている。	・知らない人には何度もどんな人が聞く。 ・長電話をしてしまいやすい。 ・知らないうちに間違つてかけてしまうことがある。

a 実用的なこと	a3 社会的生活	a311	異合が悪い時			
		a312	休憩すること			
健康・医療		a313	服薬すること			
		a314	病院、歯科医を 利用すること			
		a315	医師などと 接する時の様子			
		a316	健康・医療に 関する特記事項			
		a321	屋外での移動			
		a322	交通機関の利用			
移動・交通機関の 利用		a323	乗車時の様子			
		a324	交通ルール			
		a325	移動・交通機関の利用に 関する特記事項			
		a331	お金を使うこと			
		a332	買い物をすること			
買い物		a333	自動販売機の利用			
		a334	お金のやりとり			
		a335	買い物に関する 特記事項			
		a341	電話を使うこと			
		a342	電話の使用に 関する特記事項			

a44	余暇生活								
a45	職業に觸れること								
a51	作業（制作活動）の基礎	a511	作業（制作活動）に取り組み方や意欲を持つて取り組んでいること、集中して活動する場面など	取り組み方や意欲を持つて取り組んでいること、集中して活動する場面など	・「はさみを使うことが好きで、熱心にいろんな形に切ることができ。」 ・「クレヨンや鉛筆の具で熱心に描くことができる。」	・「なんでも切ってしまうことがある。」 ・他の活動に切り替えるまで時間がかかることがある。			
a512	作業（制作活動）をすること	a512	作業（制作活動）を取り組む様子、作業活動中の様子、後始末に取り組む様子など	使う物が分かると、自分の運営を用意することができます。	・自分の物がないとそのことにこだわってしまう。				
a513	得意な作業（制作活動）	a513	得意な役割（活動）など	用意した材料でいいいに作ることができます。	・時間になつても材料がなくなるまで作らないと納得しないことが多い。				
a514	周囲の人と関わること	a514	人に聞くこと（分からぬ時や困った時、活動が終了した時の報告）、協力して取り組む様子など	お願いするどみんな分の用具や材料を配ってくれる。	・友達が配った道具をちゃんともらってくれないと、無理に渡してしまうことがある。				
a52	作業（制作活動）の理解	a521	自分の役割（活動）に自分の役割（活動）で理解していることなど	ビーズ通じが好きで、長い時間することができる。	・ビーズを通して教わらかにしてしまうことが多い。				
a522	作業（活動）の流れの理解	a522	工程に対しての理解、工程に変更があった時の様子など	分からない時は、すぐに聞いて確かめることができます。	・同じことを何度も聞くことがある。				
a523	作業（活動）の達成の理解	a523	一定数に取り組む、完成させるといった成果の理解、評価される（ほめられる）ことの理解	声をかけると返事をすることができます。	・声かけがないとずっと待つてしまいやがい。				
a524	施設や作業所での活動の経験	a524	利用した施設や作業所、経験した仕事の内容について	自分の役割を責任を持ってすることができる。	・自分の役割が終わるまで、嫌らぬことがある。				
a525	作業（制作活動）に触れる特記事項	a525	上記の他に特徴のあること	自分のやる場所にやって、すぐ取り組むことができる。	・いつもどおり方が変わると混乱してしまう、どうしてもじないと結構しないことが多い。				
a6	安全								
a601	危険なことの理解	a601	危険な場所や状況（高い所、側面、線路、火の気のある所など）での様子、危険な道具（刃物、火を使うもの）の扱い方など	・怖いところを知っていて、そういうところには近づかない。	・道を歩いている時に怖い物があると、大人が一緒にでも近づかない。				
a602	対しての行動	a602	「あぶない」などの呼びかけに対しての理解、様子などを呼びかけた時	・高いところを見つけることができる。	・高い所や高いところが好きで、行ってしまう。				
a603	身を守ること	a603	危険な場所や物に近づかないことを理解している様子、道路の移動のしかた、安全を確認している様子など	・呼びかけると、すぐに近くに行くことができる。	・他の大声で呼ばれると、とても怖がって混乱してしまうことが多い。				
a604	避難訓練の様子、災害があつた時などに考えられること	a604	遭難訓練の様子、災害があつた時などに考えられること	・轍路を歩く時は歩道を歩くことができる。	・轍路の轍石の上を歩くことはまだない。				
a605	安全に関する特記事項	a605	上記の他に特徴のあること	・ボールなどの物が飛んでくると、体によけることができる。	・歩道に轍石になると、轍路が歩きづらくなってしまう。				
	実用的なこと			・声をかけて一緒に行動することができる。	・急なことだと、混乱することがある。				
				・迷路場所で一緒に待っていることができる。	・待ついる時間が長いと、辛くなつて泣いてしまうことがある。				
				・興味のある所にすぐに行ってしまうことがある。	・興味のある所には、轍を開けて行つてしまふことがある。				

a4 余暇生活	a401	自由な時間の 過ごし方		
	a402	好きなこと		
	a403	人と関わる活動		
	a404	量化製品を 使用すること		
	a405	余暇生活に 関する特記事項		
a5 職業に関すること				
a 5.1 作業 (製作活動) の基礎	a511	作業(製作活動)に 対する姿勢		
	a512	作業(製作活動)を する様子		
	a513	得意な作業 (製作活動)		
	a514	周囲の人と 関わること		
a 5.2 作業 (製作活動) の理解	a521	自分の役割(活動)に 対する理解		
	a522	作業(活動)の 流れの理解		
	a523	作業(活動)の 達成の理解		
	a524	施設や作業所での 活動の経験		
	a525	作業(製作活動)に 関する特記事項		
a6 安全				
	a601	危険なことの理解		
	a602	危険なことを 呼びかけた時		
	a603	身を守ること		
	a604	突発的な事態に 対しての行動		
	a605	安全に関する特記事項		

b1 コミュニケーション	b11 ことはを受けること(受容言語)	b111 物の名前やこどばの意味の理解	理解していることば(内的言語)の程度や様子など	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な物や友達の名前をだいたい知っている。 ・食べ物や好きな遊びの名前を知っている。 ・「音楽」とはまだ知らないことを聞いて、うなずいたり首を振ったりして伝えることができる。 ・経したことなどを聞いて返事をすることができます。 ・いつもある活動や場所を写真方などで伝えるなどいたい分がつて行動することができる。 ・活動で使う物を覚えると、理解することができます。 ・ひらがなの名前はだいたい知っていて覚んでいる。 ・書き言葉として書いた言葉について理解している ・書類カードで伝えると、読んでも理解することができます。 ・聞いたことをそのまま言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・知っている言葉でも、あまり関係のない言葉を付け加えて話すことがある。 ・気に入った物の名前を何度も言って、行ってもらうことを大人に迫ることがある。 ・「音楽」とはまだ知らないことを聞いて、うなずいたり首を振ったりして三音以上の長い話だと分かりづらい。 ・何度も言うと、話したことを繰り返して言って混乱することがある。 ・経したことなどを聞いて返事をすることができます。 ・いつもある活動や場所を写真方などで伝えるなどいたい分がつて行動することができる。 ・カードにこだわっててしまうことがある。 ・何度も物ないと結構しない。 ・カタカナのある文字を読むことは難しい。 ・繰り返し読みでこだわっててしまうことがある。 ・書類を繰り返してこだわっててしまうことがある。
b12 ことはを表すこと(表現言語)	b121 話すこと	b112 話し言葉の理解	単語や語句、文章としての話し言葉の理解の程度や様子など	<ul style="list-style-type: none"> ・身振りやサイン、記号やシンボル、絵や写真といった言葉以外の表現を理解する様子など ・字句などの文字として書き表した言葉について理解している ・ことなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いいらない」などの嫌なことは、あまり言葉で伝えず、うつむいてしまうことが多い。 ・同じような身振りでも違う意味の場合はあって、伝わないと困ってしまうことがある。 ・違うことでも同じカードで伝えることがある。 ・自分なりの身振りなので、思うように伝わらないと困ってしまうことがある。 ・同じことはを使ってパターンがきまつてしまいやさい。 ・文字が量なって読みづらくなりやすいやさい。
b13 やりとり・会話	b131 基本的ないさつ	b113 話し言葉によるメッセージの表し方	上記の他に特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・身振りやサイン、記号やシンボル、絵や写真といった言葉以外の表現方法での話しをする様子など ・書き言葉によるメッセージの表し方 ・ことなど 	<ul style="list-style-type: none"> ・二音程度の言葉で話して伝えることができる。 ・身振りや指でやさしくてやさしいことを伝えることができる。 ・「いいらない」や「お願い」を自分なりの身振りで伝えることができる。 ・「たのしかった」などのことを使って、一書日記を書いている。 ・ひらがな表や言葉カードを見ながら文字を書くことができる。 ・カードを出してやりたいことを伝えることができる。
b137 やりとり・会話	b137 上記の他に特徴のあること	b114 言葉によるメッセージの表し方	上記の他に特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・何度もあいさつを繰り返してしまい、次の活動になかなか集中できない時がある。 ・手振りが小さいので気づいてもらいくらいにいくことがある。 ・「おはよう」「元気です」「しようなら」等の言葉のやりとりをするに、おはようございます、元気です」と一方的に言ってしまうことがある。 ・伝わらない同じ言葉を繰り返すことがある。 ・伝えたい写真カードがない時と伝えることができなくて困ってしまうことがある。 ・同じような身振りなので、分かってもらえない時がある。 ・何度か同じ言葉を繰り返すと、言葉にこだわって興奮してしまうことがある。 ・一方的に話してしまうことがある。 ・あまり親しくない人から声をかけられると、緊張して戸惑ってしまう。 ・声をかけないと改行なしで繋げて打つしまう。 ・関係のないページに行つてトラブルになってしまったことがある。 	

b1	コミュニケーション			
b11	ことばを 受けとるにこ とばを (受容言語)	b111 物の名前やことばの 意味の理解 話し言葉の理解 b112 話し言葉以外の ことばの理解 b113 話し言葉による ことばの理解 書き言葉による メッセージの理解 b114 書き言葉による メッセージの理解 b115 ことばの受けとりに 関する特記事項		
b12	ことばを 表すこと (表出言語)	b121 話すこと b122 話し言葉以外の ことばの表し方 書き言葉による メッセージの表し方 b123 書き言葉による メッセージの表し方 b124 ことばの表しに関する 特記事項		
b13	やりとり。 会話	b131 基本的ないさつ b132 いろいろな場面での あいさつ b133 意思の伝え方 b134 様々な状況に応じた ことばのやりとり b135 人とのやりとり b136 電子機器などを使用し たコミュニケーション b137 やりとりや会話を 関する特記事項		

b6	b62 読むこと、書くこと	b201 文字を読むこと	読める文字（ひらがな、カタカナや漢字、英語等）理解している単語や文章など	・簡単な漢字のある本を読むことができる。 ・ひらがなとカタカナを読むことができる。	・大人に一つ一つを言ってもらって確認することができる。 ・「がつこう」などの「つ」も1文字として読んでしまいます。
	b202 文字を書くこと	書き表す文字（ひらがな、カタカナや漢字等）、文字のバランスや書き写すこと、文章として書く時の様子など	・ひらがなとカタカナを書くことができる。	・「の」「と」を縦文字で書く。 ・文字を重ねて書いてしまいます。	・「の」「と」を縦文字で書く。 ・文字を重ねて書いてしまいます。
	b203 自のことについて	氏名、電話番号、住所などの自分のことについて読みや書き表すこと	・自分の名前をひらがなで書くことができる。	・時々、名前の文字の順番が転倒する時がある。	・住所は〇〇市まで書けるその後はまだ覚えていない。
	b204 標識や掲示などの文字の理解	理解している標識や掲示などについて（施設や道路等の標示など）	・住所と電話番号で書くことができる。	・大きな声で「とまれ」と言つて止まる。	・「〇〇だね」と一つ一つ言つて気にしてしまうことがある。
	b205 読むことや書くことに関する特記事項	上記の他に特徴のあること	・住所と電話番号を覚える。電話番号は書くことができる。 ・「止まれ」の道路標識を知っている。 ・スーパーなどにある掲示の名前を読むことができる。	・近くに大人がいるとき、腹んでもらいたくて何回もお腹いしていることがある。	・近くに大人がいるとき、腹んでもらいたくて何回もお腹いしていることがある。
b6	b63 数の概念・応用	b31 数	数字	数字の意味で理解していること、書き表すことや読みことにについての様子	・10までの数字かそぞろと書きを理解している。 ・数字を見て同じ数の物を並べることができる。
	b312 計算すること	理解している計算の方法（加減乗除）など、特徴のあること	・1桁の足し算と引き算を計算することができます。	・6と9は順番えやすい。 ・引き算で小さい数から大きい数を引くことがあります。	・+と×を間違えて押して計算することがある。
	b313 数に対する興味や関心	カレンダーや時刻表、時計などといった数に関連することで特徴のあること	・電車を使って3折同士の計算をすることができる。 ・カレンダーで今日の日付を毎日確認することができる。	・+と×を間違えて押して計算することがある。	・こだわってしまうことがある。
	b314 金額の理解	金額に応じたお金を出すなどのお金に関した理解の様子など	・0時の時間を見ている。 ・金額を見ると、その通りのお金を並べることができます。 ・金額を見てどちらが安いか高いかを比べることができます。	・0時分といった分単位の読みがまだ読むことができない。 ・並べることにこだわってしまうことがある。 ・考えすぎて逆に思ってしまうことがある。	・0分はまだ読むことができない。 ・並べることにこだわる。
b32 時計	b321 時計を読むことなど	時計の読みで理解していること（「〇時」や「〇時半」といった読み）、理解しやすい時計の種類（アナログ、デジタル）についてなど	・時計の〇時半を読むことができる。 ・書かれた時間を見て、時計で確認することができる。	・時間が近づくと時計を気にしてしまいます。	・時間通りに実行できないと混乱してしまいます。
	b322 時間を理解すること	時間で行動するなどの時間を意識して行動する様子	・腕時計を見て、時間がくるとその時間のことをする。	・時計カードがないときにしてしまっている。	・時計カードがないときにしてしまっている。
b33 カレンダー	b331 カレンダーの理解	日付や曜日で理解していることなど	・カレンダーを見て今日の日付カードをとることができる。 ・曜日カードは違う物を取ってしまったらしい。	・曜日を理解している。	・曜日を理解している。

b2 読むこと、書くこと	b201	文字を読むこと		
	b202	文字を書くこと		
	b203	自のことについて		
	b204	標識や掲示などの 文字の理解		
	b205	読むことや書くことに 関する特記事項		
b3 数の概念・応用				
数	b311	数字		
	b312	計算すること		
	b313	数に対する興味や関心		
	b314	金額の理解		
時計	b321	時計を読むことなど		
	b322	時間を理解すること		
b33 カレンダー	b331	カレンダーの理解		

C	対人関係	c101	人に会った時の接し方	家族や知っている人の接し方や知らない人と接した時の様子など	<ul style="list-style-type: none"> ·親しい人と金うどんでも喜ぶことができる。 ·嫌しそうすると気持ちが高まつて抱きついてしまうことがある。 ·あまり知りない人が接してくると、緊張して泣いてしまうことがある。 	
		c102	要求や拒否などがある時の接し方	手を引く、言葉で伝える、カードを使用するなど特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ·気をつけをして金取ることができる。 ·やりたいことがある時に手を引いて伝えることができる。 ·・嫌な時、知らない時、したくない時はうつむいて少し頭を振つて伝える。 ・・・・・ 	
		c103	人と接する時の距離のおき方	人と接する時の距離のおき方や特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ·強く引つ張るつてしまふことがある。 ・・・・・ 	
		c104	ふれあうこと	声かけを受けた時の様子、身体的なふれあいがあつた時の様子など	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	
		c105	自分や他の人を意識する様子	自分など他の人などを区別したの意識したりしながら行動する様子、他の人のどこを受け入れたり尊重したりする様子など	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	
		c106	対人関係に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・呼されたことに気づいても、視線が合わないとあまり意識しない。 ・運転がなかつたりすると、焦ってしまう時がある。 ・名前を呼ばれて、挨拶が合うと手タッチをすることができる。 ・やつともうらいたいことがあると、してくれそうな人の所に行つてお願いすることができる。 ・無理に引っ張つてお願いすることがある。 	
C2 集団への参加		c201	集団の場所での様子	だくさんの人がいる場所を見た時の様子、特徴のこと	<ul style="list-style-type: none"> ・集団に入ることが今はない。 ・無理に怪しまれると混乱してしまう。 	
		c202	集団の中での様子	だくさんの人がいる中にに入った時の様子、特徴のこと	<ul style="list-style-type: none"> ・居たまゝにこだわつてしまうことがある。 ・その場所にこだわつてしまうことがある。 ・・・・・ 	
		c203	集団活動時のルールの理解	人を意識する様子、レクリエーションなどの活動でルール(順番を持つ、人の物と自分の物を区別するなど)を意識する様子など	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい時は、みんなの前に出て歌や踊りを思いきり楽しむことが多い。 ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	
		c204	集団参加に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・ちゃんと順番を守つて過ごすことができる。 ・自分の物を覚えていて、いつも繋げず持つことができる。 ・いつも前に出ているんな人に声をかける。 ・声をかけると順番を守ることができるものがある。 	
C3 責任		c301	自分の役割に対する意識	役割や課題に取り組む様子(短時間取り組むこと、最後まで取り組むことなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・なんでも一人でがんばらうとするので、なかなか譲らない時がある。 ・カードで役割を伝えると分かっててくれる。 	
		c302	責任に関する特記事項	上記の他に特徴のあること	<ul style="list-style-type: none"> ・責任感が強く、自分の役割に最後まで取り組むことができる。 ・カードで役割を伝えると分かっててくれる。 ・責任感を強く、自分の役割に自信を持つて取り組むことができる。 ・毎日の仕事をいつも同じ流れで行うことができる。 ・いつもと違う流れやパターンになると、混乱してしまうことがある。 	
C4 自己管理・自己決定		c401	自分の行動をコントロールすること	日課にそつて活動すること、活動の流れにそつて行動することなど	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	
		c402	自分の身のまわりのことを管理することなど	自分の持ち物を管理することなど	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	
		c403	自己選択・自己決定すること	自分で選ぶことや自分で決めることについての様子	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	
		c404	日課に変更がある場合	日課に変更があった時の様子について	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	
		c405	自分の生活を計画すること	自分でプランを立てること(一日の生活や好きな活動をする時間)を自分で計画することなど	<ul style="list-style-type: none"> ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ ・・・・・ 	

c1 対人関係	c101 人に会った時の接し方		
	c102 要求や拒否などが ある時の接し方		
	c103 人との距離のおき方		
	c104 ふれあうこと		
	c105 自分がや他の人のを 離れる様子		
c2 集団への参加	c106 対人関係に関する 特記事項		
	c201 集団の場所での様子		
	c202 集団の中での様子		
	c203 集団活動時の ルールの理解		
	c204 集団参加に関する 特記事項		
c3 責任			
	c301 自分の役割に対する 意識		
	c302 責任に関する特記事項		
c4 自己管理・自己決定			
	c401 自分の行動を コントロールすること		
	c402 自分の身のまわりの こと		
	c403 自己選択・自己決定 すること		
	c404 日課に変更が あった場合		
	c405 自分の生活を 計画すること		

c5 自信を持つていること	c501 得意な活動や役割	自分から取り組める活動（役割）、自信を持つている活動（役割）	・あいさつ等で元気良くあいさつしている。 ・朝の仕事を忘れずにいることができる。	・あいさつない人がいると、くれたままであいさつすることがある。 ・行きなどで仕事がない日でも行わない点钟、ない時がある。
	c502 進んで取り組む時の様子	活動の様子、他者との関わりなど	・自分の役割をする場所に進んで歩いていく。 ・自分の役割に向かうことができる。	・その場所に居る人がないと、来るまで待つことが多い。 ・大人がついてきてくればいいと、にして役割にむかいくらい。
	c6 きまり、ルール	基本的なきまりを守ること	・きまりはいつも守ることができる。守っていない人を注意することもある。	・守っていない人をなかなか歎せない時がある。
D1 パーソナリティー（人柄について）	d101 個性的な特徴	性格について	・音楽が好きで、美しい時、機嫌の良い時はいつも歌を歌っている。 ・音楽があつて、初めての人でも遠慮なく接する。 ・正義感が強く、悪いことをしている人を許さない。	・大きな声で歌ってしまうことがある。 ・からだにタッチすることがまだにある。 ・許せないと思った人に、強く言いつけてしまうことがある。
	d102 興味・関心の高いことから	制作活動（絵や造形など）、記憶面（鉄道路線やカレンダーを覚えるなど）といった得意なことについて	・小さい子にとても優しい。 ・貼り絵が好きで、細かい物を現証して貼り合わせて作品を作っている。 ・小さな物を穴に入れることができる。 ・車の名前やマークをたくさん覚えている。	・抱っこをしたくなつて、無理に抱き上げてできない時がある。 ・舐め廻すなどただ同じことを繰り返すだけになつて、辛くなつてしまう時がある。 ・見つけた物を何でも頬張やべに入れてしまう。
	d103 夢中になること（こだわること）	上記の他に特徴のあること	・鉄道関係が好きで、駅に行つて汽車を見たり、時刻表を見たりする。 ・乗物の本が好きで、じっくりと見て過ごしている。 ・人と遊ぶことが好きで、歩いて抱きつくことができる。 ・写真が好きで、時間があるとたくさん見ている。	・一人で遊つてしまうことがある。 ・特にに入った乗物の写真是切り抜いてしまうことがある。 ・美しい時は思わず強くつかんでしまってしまうことがある。 ・気に入つた写真を何でも飲みがつてしまいややすい。
d2 夢中になること（こだわること）	d201 夢中になること	夢中になるもの、その様子など	・水を使うことに夢中になる。 ・本や絵を見ることが好きで、夢中になって読む。 ・音楽などの乗り物が好きで夢中になる。	・なかなかやめられない時がある。 ・夢中になりすぎると、次にすることにならなかがれないことがある。 ・楽器を譜で強くたたいてしまうことがある。
	d202 こだわること	こだわりと思われる内容や様子、こだわりの程度（大きなくだりや、小さなこだわり）などについて	・歌が好きで音をあわせて上手に歌うことができる。 ・戸が少しでも開いていると気づいて閉めてくれる。 ・本などを挟みた場所に施してくれる。 ・本やおもちゃをきれいに並べることができる。	・大きい音で歌いてしまう。 ・練り返し歌うと、興奮してきて大きな声になつてしまうことがある。 ・閉まり方が悪いと何度も閉め直す。 ・他の人が使っている時でも、取つて戻そうとすることがある。 ・並び方や位置が違うと、何度もやり直すようなこだわりになることがある。
	d3 感覚	感覚面で特徴的なこと	・きらきら光るもの好きで、いつまでも見ていられる。 ・音に敏感で、冷感症のモーター音など、気になつた物に耳をつけずつと聞いている。	・なかなかやめられない時がある。目に近づけすぎて目を痛くしてしまうことがある。
d3 感覚	d301 皮膚の感覚面で特徴的なこと	皮膚を刺激する行動で特徴的なこと（肌をさする、叩く、こする、ひつかくなど、特徴的な行動をする様子）	・ハンカチでこまめに顔を拭くことができる。	・口でも口にして確かめようとする。
	d302 自分で刺激するような行動	自分で刺激を与えているような行動について（上記の他に、身体を頻繁に刺激するような行動について）	・肌をされやかさぶたを触つて、気持ちを落ち着かせる時がある。	・何回も拭いて、肌が腫つてしまつことがある。
	d303 自分で刺激するような行動	身体を頻繁に刺激するような行動について（上記の他に、	・気持ちが落ち着くと、耳を伸ばして気持ちは落ち着かせようとする。	・何回も擦つてしまつ、血が出ることがある。

c 社会的なこと	c5 自信を持っていること	c501 得意な活動や役割	c502 進んで取り組む時の様子	
	c6 きまり、ルール	c601 基本的なきまりを守ること		
	d1 パーソナリティー（人柄について）	d101 性格について	d102 個性的な特徴	
d 自己認識・自己評価	d2 夢中になること（こだわること）	d201 夢中になること	d202 こだわること	
	d3 感覚	d301 感覚面で特徴的なこと	d302 皮膚の感覚面で特徴的なこと	
		d303 自分を刺激するような行動		

記入月日:	月	日	
コードNO.		視 点	
 得意なところ、できるところ			
 困っているところ、苦手にしているところ ・どんなときに(場面、状況) ・どんなことを			
備考			
考え方の学習・生活の場面(支援や活躍について)			
 支援のアイディア(援助することで自分でできると考えられること)			

「視点ツール」に関するアンケート

※ 「視点ツール」とは、以前提供しましたファイル、『子どものための「視点リスト」ガイドブック』『子どもの生活の「視点リスト」』および「評価カード」(教師のみ試用)のことをいいます。

- ・ このアンケート調査は、「視点ツール」がより分かりやすく使いやすいものになることを目指し、試用していただいた方から、率直なご意見、ご感想をお答えいただくことを目的としています。
 - ・ 各質問項目にある内容に沿ってお答えください。
 - ・ 4段階および3段階、2段階で評価する質問項目は、評価の数字を記入してください。
 - ・ 質問項目3『「評価シート」について』は教師のみお答えください。
 - ・ 質問項目4『「視点リスト」の構成について』は可能な範囲で記入をお願いします。
- ※ 「視点ツール」(ファイル)をご覧になりながらお答えください。
-

回答者のご氏名

お子さまの在籍する学部・学年

学部

学年

1 『子どもの生活の「視点リスト」ガイドブック』について

『子どもの生活の「視点リスト」ガイドブック』(以下、「ガイドブック」といいます) をご覧ください。

各質問項目に対して、4段階で評価してください。(数字を記入してください)

[4:分かりやすい 3:だいたい分かる 2:部分的に分かりにくい 1:分かりにくい]

① 「ガイドブック」の1ページ目にある「はじめに」の説明では、使用の目的が明確にされていたでしょうか。

② 2ページ以降にある、「記入の仕方」全体の説明は分かりやすいものだったでしょうか。

③ 1から3までの各ステップの説明は分かりやすかったでしょうか。

④ その他、「ガイドブック」に関する具体的な意見・要望等をお書きください。

2 『子どもの生活の「視点リスト』について

『子どもの生活の「視点リスト』(以下、「視点リスト」といいます)をご覧ください

(1) 「視点リスト」の形式について

- ① 「視点リスト」に記入しやすいように、全ての視点に記入例を設けました。記入例は記入方法が分かり、記入しやすいものだったでしょうか。

[4:記入しやすい 3:だいたい記入できる 2:部分的に記入しにくい 1:記入しにくい]

- ② 記入しやすいようにページを見開き型にし、上段に「記入例」を、下段に「記入欄」を設定しました。この形は記入しやすいものだったでしょうか。

[4:記入しやすい 3:だいたい記入できる 2:部分的に記入しにくい 1:記入しにくい]

- ③ 各視点を「得意なこと」と「苦手なこと」の両面から捉えて記入する、という把握のしかたは記入しやすいものだったでしょうか。

[4:記入しやすい 3:だいたい記入できる 2:部分的に記入しにくい 1:記入しにくい]

④ 「優先項目」の欄について

具体的な支援を考えるために、「優先項目」の欄を設定し、◎と○の2段階で記入していただきました。このことで、保護者と教師間で支援を図りたいことが明確になったでしょうか。

[4:明確になった 3:ほぼ明確になった 2:あまり明確にならない 1:明確にならない]

- ⑤ 保護者と教師それぞれで、子どもの特徴について気づいたことを記入しました。このことで、子どもの様子について気づいた点はありますか。最も考えに近い数字を記入してください。

[4:ほぼ同じ内容だった 3:知らなかった面があった 2:様子の捉え方に違いがあった 1:分からない]

(2) 「視点リスト」の使い方について

- ① 保護者と教師の双方で子どもの様子を記入してもらいました。このことで子どもの様子について把握できたでしょうか。

[3:だいたい把握できた 2:よく分からない 1:あまり把握できなかった]

- ② 「視点リスト」をもとに、具体的な支援をはかることができたでしょうか。

[3:はかることができた 2:よく分からない 1:はかることができなかつた]

(3) その他、「視点リスト」に関する具体的な意見・要望等をお書きください。

3 「評価シート」について

*この質問は教師のみ答えてください。

- ① 「評価シート」にある各記入欄は記入しやすいものだったでしょうか。以下の3点についてお答えください。

[4:記入しやすい 3:だいたい記入できる 2:部分的に記入しにくい 1:記入しにくい]

- ① 困っているところ、苦手にしているところ(どんなときに(場面、状況)、どんなことを)

- ② 考えられる学習・生活の場面(支援や活躍について)

- ③ 支援のアイディア(援助することで自分でできると考えられること)

(2) 「評価シート」に関する意見、要望等をお書きください。

4 「視点リスト」の構成について

(1) 「視点リスト」の構成は、子どもの日常生活の様子を把握、整理する上で分かりやすいものだったでしょうか。

各視点の分かりやすさについて2段階で評価してください。(各視点にある特記事項の欄は除きます)

[2:分かる 1:分かりにくい]

※この質問は可能な範囲でお答えください。(1に該当する視点のみを記入しても結構です。)

2段階評価

a 1 基本的日常生活（身辺処理）

a11 食べること	a111 食器の使い方 ----- a112 食事の量や傾向 ----- a113 好き嫌い ----- a114 食べ方 ----- a115 食べる時の環境 ----- a116 間食	
a12 排泄	a121 排泄のコントロール ----- a122 排泄時の環境 ----- a123 排尿のしかた ----- a124 排便のしかた ----- a125 生理の手当 ----- a126 排泄後の手洗い	
a13 清潔	a131 手を洗うこと ----- a132 うがいをすること ----- a133 歯を磨くこと ----- a134 顔を洗うこと ----- a135 爪をさること ----- a136 体を洗うこと	
a14 衣服の着脱	a141 衣類を着ること ----- a142 衣類を脱ぐこと ----- a143 ボタンやファスナーの着脱 ----- a144 履き物を履くこと ----- a145 履き物を脱ぐこと ----- a146 衣服の調節 ----- a147 着替えをする場所	

a 2 家庭的生活

a21 一般的家事	a211 掫除すること a212 洗濯すること a213 食事の準備すること a214 食事の片付け a215 調理すること a216 嗜好品など a217 火を扱うこと a218 その他のお手伝い	
a22 身だしなみ	a221 身なりを整えること a222 床屋、美容院の利用	
a23 整理整頓	a231 物を整理すること a232 衣服の手入れをすること	

a 3 社会的生活

a31 健康・医療	a311 具合が悪い時 a312 休息すること a313 服薬すること a314 病院、歯科医を利用すること a315 医師などと接する時の様子	
a32 移動・交通機関の利用	a321 屋外での移動 a322 交通機関の利用 a323 乗車時の様子 a324 交通ルール	
a33 買い物	a331 お金を扱うこと a332 買い物をすること a333 自動販売機の利用 a334 お金のやりとり	
a34 電話の使用	a341 電話を使うこと	

a 4 余暇生活

a401 自由な時間の過ごし方 a402 好きなこと a403 人と関わる活動 a404 電化製品を使用すること	
---	--

a 5 職業に関すること

a 51 作業 (製作活動) の基礎	a511 作業(製作活動)に対する姿勢	
	a512 作業(製作活動)をする様子	
	a513 得意な作業(製作活動)	
	a514 周囲の人と関わること	
a 52 作業 (製作活動) の理解	a521 自分の役割(活動)に対する理解	
	a522 作業(活動)の流れの理解	
	a523 作業(活動)の達成の理解	
	a524 施設や作業所での活動の経験	

a 6 安全

	a601 危険なことの理解	
	a602 危険なことを呼びかけた時	
	a603 身を守ること	
	a604 突発的な事態に対しての行動	

b 1 コミュニケーション

b11 ことばを受け とること (受容言語)	b111 物の名前やことばの意味の理解	
	b112 話し言葉の理解	
	b113 話し言葉以外のことばの理解	
	b114 書き言葉によるメッセージの理解	
b12 ことばを表す こと (表出言語)	b121 話すこと	
	b122 話し言葉以外のことばの表し方	
	b123 書き言葉によるメッセージの表し方	
b13 やりとり・ 会話	b131 基本的なあいさつ	
	b132 いろいろな場面でのあいさつ	
	b133 意思の伝え方	
	b134 様々な状況に応じたことばのやりとり	
	b135 人とのやりとり	
	b136 電子機器などを使用したコミュニケーション	

b 2 読むこと、書くこと

	b201 文字を読むこと	
	b202 文字を書くこと	
	b203 自分のことについて	
	b204 標識や掲示などの文字の理解	
	b205 読むことや書くことに関する特記事項	

b 3 数の概念・応用

b31 数	b311 数字	
	b312 計算すること	
	b313 数に対する興味や関心	
	b314 金額の理解	
b32 時計	b321 時計を読むことなど	
	b322 時間を理解すること	
b33 カレンダー	b331 カレンダーの理解	

c 1 対人関係

c101	人に会った時の接し方	
c102	要求や拒否などがある時の接し方	
c103	人ととの距離のおき方	
c104	ふれあうこと	
c105	自分や他の人を意識する様子	

c 2 集団への参加

c201	集団の場所での様子	
c202	集団の中での様子	
c203	集団活動時のルールの理解	

c 3 責任

c301	自分の役割に対する意識	
c302	責任に関する特記事項	

c 4 自己管理・自己決定

c401	自分の行動をコントロールすること	
c402	自分の身のまわりのこと	
c403	自己選択・自己決定すること	
c404	日課に変更があった場合	
c405	自分の生活を計画すること	

c 5 自信を持っていること

c501	得意な活動や役割	
c502	進んで取り組む時の様子	

c 6 きまり、ルール

c601	基本的なきまりを守ること	
------	--------------	--

d 1 パーソナリティー（人柄について）

d101	性格について	
d102	個性的な特徴	
d103	興味・関心の高いことがら	

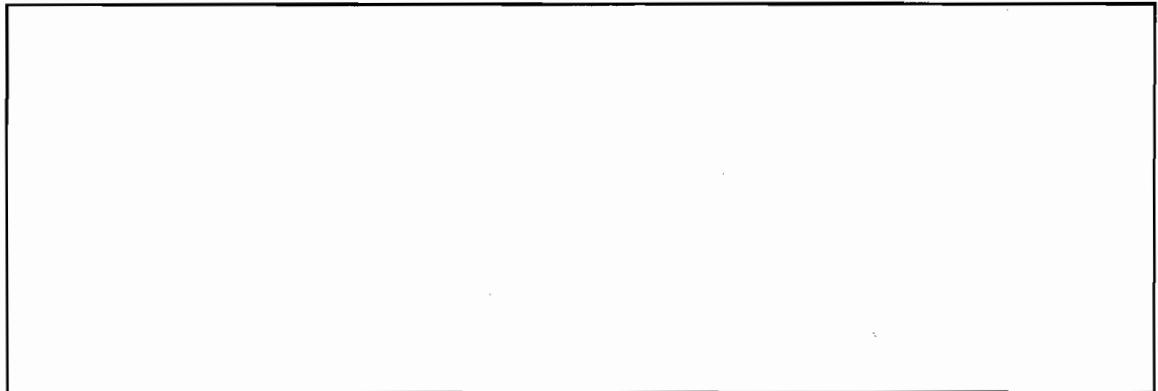
d 2 夢中になること（こだわること）

d201	夢中になること	
d202	こだわること	

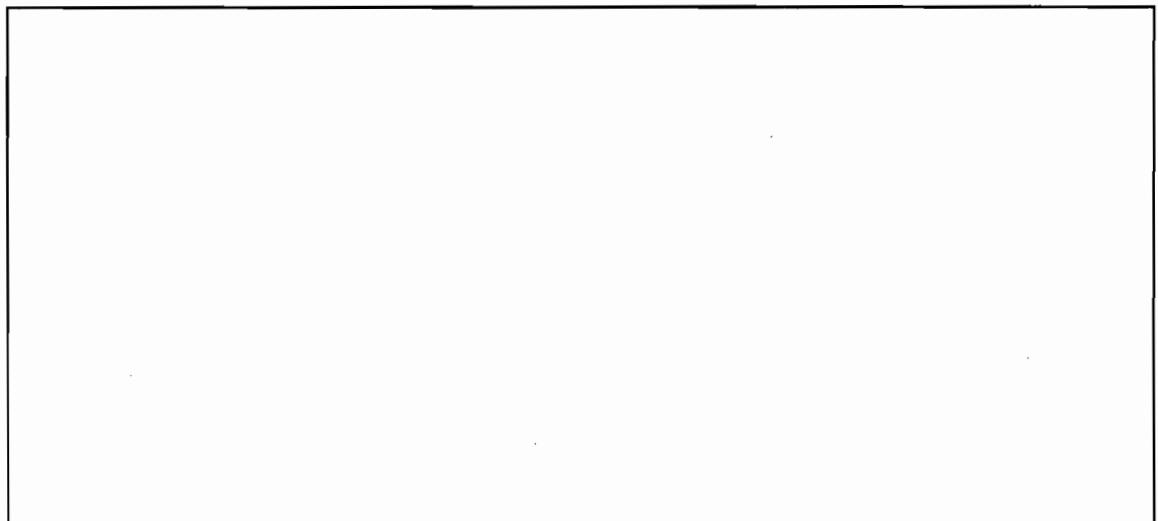
d 3 感覚

d301	感覚面で特徴的のこと	
d302	皮膚の感覚面で特徴的のこと	
d303	自分を刺激するような行動	

- (2) 「視点リスト」で設定した視点のほかに、子どもの生活の様子を共通理解するために必要またはあるといいと思う視点はあるでしょうか。あると思う場合、その視点(場面)をお書きください。



5 「視点ツール」全般について率直な意見、要望等をお願いします。



以上でアンケートを終わります。ご協力ありがとうございました。

本書は、(財)みずほ教育福祉財団の
助成を受けて、刊行したものです。

障害児教育研究論文 —平成18年度—

知的障害養護学校における児童生徒の実態把握ツールの開発
—教師と保護者が子どもの実態と支援を共有するためのツールの在り方—

平成19年3月 印刷

平成19年3月 発行

編集・発行 (財)障害児教育財団
横須賀市野比5-1-1
国立特殊教育総合研究所内
